

[学校案内](#)[学科・専攻科](#)[入試情報](#)[企業の皆様](#)[地域の皆様](#)[在学生・保護者の皆様](#)[卒業生の皆様](#)
[鈴鹿工業高等専門学校 - 創造力豊かな国際社会に通用するエンジニアを育成](#)
[> 学校案内](#)
[> 学校紹介](#)
[> 理念と目標](#)

理念と目標

建学の精神

創設以来、“技術者はすべからく紳士・淑女たれ”という考え方が本校の教育の基底にある。専門教育の層の高度化や創造力の育成が強く求められる現代であっても、知・徳・体バランスの取れた人間教育（全人教育）を重視することに変わりない。それが鈴鹿高専の建学の精神である。

本校の使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する
 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する
 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる
 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる

養成すべき人材像

生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性を持った人材
 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
 課題探究能力と問題解決能力を身に付けた創造性豊かな人材
 コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

教育方針

学科（準学士課程）

5年 貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てる。

専攻科課程

幅広い基礎技術と高度な専門知識を有し、広い視野から社会の変化に的確に対応できる技術者を育成する。
 新しい価値を創造する力を備え、研究開発能力、課題探求能力を有し、社会に貢献できる意欲的な技術者を育成する。
 社会に対する責任を自覚でき、優れた倫理観をもった技術者を育成する。
 日本語及び英語によるコミュニケーション能力をもった技術者を育成する。

教育目標

学科（準学士課程）

教養教育の目標

豊かな人間性と社会性を涵養し、広い視野からの問題把握と価値判断ができる力を培う。また、自然科学及び情報処理の知識を習得させるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成する。

学校案内

[学校案内トップ](#)
[学校紹介](#)
[理念と目標](#)
[3つの方針](#)
[教育の特色](#)
[沿革](#)
[運営組織](#)
[役員員](#)
[統計情報](#)
[校歌](#)
[教育と研究](#)
[教員 覧](#)
[施設紹介](#)
[情報処理センター](#)
[青峰寮](#)
[図書館](#)
[アクセス](#)
[記録・広報誌](#)
[情報公開](#)
[工事・調達情報](#)

鈴鹿工業高等専門学校HP(理念と目標)

専門教育の共通目標

準学士課程の教育を実施し、高い専門知識と豊富な実験技術を養う。

機械工学科の目標

機械工学に関する理論と知識(材料と構造、運動と振動、エネルギーと流れ、情報と計測・制御、設計と生産、機械とシステム等)、実験技術を習得させるとともに、応用・展開力、創造性を養う。

電気電子工学科の目標

電気電子工学に関する理論と知識(電気磁気学、電気・電子回路、エネルギー・電気機器、物性・デバイス、計測制御、情報・通信)並びに全学年にわたって系統的に配置した実験・実習科目により実践的な技術を習得させ、創造性を養う。

電子情報工学科の目標

電子情報工学に関する理論と知識(電気磁気学、電子回路、電子工学、電子制御、ソフトウェア工学、計算機工学、情報通信ネットワーク等)及び実験技術並びにそれらの融合化技術に関する知識を習得させるとともに、創造性を養う。

生物応用化学科の目標

化学に関する理論と知識(無機化学系科目、有機化学系科目、分析化学系科目、生物化学系科目、物理化学系科目等)及び応用化学あるいは生物工学に関するコース別専門知識(工業化学系科目、化学工学系科目、設計・システム系科目、環境工学系科目、細胞工学系科目、遺伝子工学系科目、生体材料工学系科目等)並びに豊富な実験技術を習得させるとともに、創造性を養う。

材料工学科の目標

材料工学に関する理論と知識(材料の物理と化学、材料の構造・設計・物性・機能、製造プロセス等)及び豊富な実験技術を習得させるとともに、それらを応用して材料に関連する諸問題を解決できる創造性を養う。

専攻科(専攻科課程)

総合イノベーション工学専攻の教育目標

より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てる。また、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てる。

環境・資源コース

地球温暖化や酸性雨に代表される環境問題、自然環境破壊抑制のための環境保全、バイオマス・鉱物・水・生物・海洋等各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

エネルギー・機能創成コース

次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

ロボットテクノロジーコース

自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、機械、電気・電子、情報・通信、生物、化学、材料等の幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断的教育プログラムで達成される能力を身につけた創造的実践的技術者を養成する。

先端融合テクノロジー連携教育プログラム

本校専攻科と国立大学法人豊橋技術科学大学がそれぞれの強みをもつ教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図り、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を養成する。

[+ ページの先頭へ](#)

[ホーム](#) | [学校案内](#) | [学科・専攻科](#) | [入試情報](#) | [企業の皆様](#) | [地域の皆様](#) | [在学生・保護者の皆様](#) | [卒業生の皆様](#) | [新着情報](#) | [フォト広報](#) | [メディア情報](#) | [情報公開](#) | [リンク集](#) | [サイトポリシー](#)

独立行政法人 国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校
〒510 0294 重県鈴鹿市白子町 お問い合わせ・連絡先

アドミッション・ポリシー

【学科】

1. 求める入学志願者像

- 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- 他人を思いやり、協調していける人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とする。

入学者の選抜は、多様な人材を選抜するため、「推薦による選抜」と「学力による選抜」及び「帰国生徒特別選抜」を行う。

推薦選抜においては、中学校における成績を評価するとともに、自然科学や科学技術に対する興味、工学を学ぶ意欲、生徒会活動・課外活動・ボランティア活動などの経験を通して育まれた協調性、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを、面接結果を含め総合的に評価し、知徳体にバランスのとれた学生を選抜する。

学力選抜においては、実践的・創造的技術者教育に必要な一般科目と専門科目を十分理解できる学生を選抜するため、その基礎となる学力の試験及び調査書の合計点を評価して選抜する。帰国生徒特別選抜においては、作文と面接も評価して選抜する。

アドミッション・ポリシー

【第4学年編入学】

1. 求める入学志願者像

- 科学技術に興味を持ち、その発展に夢を抱く人
- 工学を学ぶ上で基礎となる知識を身につけている人
- 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、継続的に自己学習できる人
- 論理的に物事を考えることができる人
- コミュニケーション能力と協調性を身につけている人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校では、「世界に羽ばたく創造的エンジニア」の育成を目的とし、その高い可能性を持った学生の選抜を基本とする。

入学者の選抜は、筆記試験及び面接の結果を総合して行う。

筆記試験においては、実践的・創造的技術者教育に必要な科目を十分理解できる学生を選抜するため、基礎となる英語、数学、学科個別科目の試験を行う。学科個別科目については、工業系高校、普通高校を含めた各課程の学生に対応するため、学科別専門科目と物理・化学・生物からの選択制になっている。

面接においては、科学技術や工学を学ぶ意欲、適性を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー

【留学生】

1. 求める入学志願者像

- 科学技術に興味を持ち、その発展に夢を抱く人
- 工学を学ぶ上で基礎となる知識を身につけている人
- 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、継続的に自己学習できる人
- 論理的に物事を考えることができる人
- 日本語と日本文化に興味と関心を抱く人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

留学生の入学については、日本学生支援機構で実施される日本留学試験（理科（物理・化学・生物）・数学）および日本語能力試験（読解・聴解・記述）の結果と、面接試験で評価されるコミュニケーション能力や学習意欲の評価結果から推薦を受けた留学生について、科学技術への興味、工学を学ぶ上での基礎知識、何事にも積極的に挑戦する意欲と継続的な自己学習能力、論理的な思考能力を有し、日本語や日本文化に興味と関心を持つ学生であるとして入学を受け入れる。

アドミッション・ポリシー

【専攻科】

1. 求める入学志願者像

- 科学技術の発展に寄与する意欲のある人
- 自らの向上をめざして継続的に自己学習を行う意欲・適性のある人
- 論理的に物事を考える適性を持つ人
- 豊かな想像力を持ち、何事にも積極的に挑戦する意欲・適性のある人
- 広い視野を持ち、将来、国際社会で活躍する意欲・適性のある人

2. 入学者選抜方針及び選抜の方法

本校専攻科では、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者の育成を目的とし、専攻科修了時にこの目的を達成できる高い可能性をもつ学生の選抜を基本とする。

このため、学校長等の推薦による選抜及び社会人特別選抜においては、科学技術の発展や国際社会への貢献に向けて継続的に学習しようとする意欲、論理的思考能力などの適性、専門分野に関する基礎知識などを面接試験により評価し、推薦書（社会人特別選抜の場合は業績調書）及び調査書の内容と併せて総合評価する。

学力選抜においては、グローバルに活躍できる実践的技術者となるために必要な基礎的知識をTOEIC (Test of English for International Communication : TOEIC IPを含む) またはTOEFL (Test of English as a Foreign Language) iBT のスコアと数学の筆記試験により評価し、調査書の内容による意欲、適性、人物及び専門基礎知識の評価と併せて総合評価する。

カリキュラム・ポリシー

【機械工学科】

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示している。

- <視野>に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。
- <技術者倫理>に関連した倫理・社会系科目に加え、「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- <意欲>に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- <基礎>に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に関する対象科目を配置する。
- <専門>に関連した自然科学および専門科目を配置する。
- <展開>に関連した「総合実習」「機械工学実験」「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- <発表>に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学（留学生においては日本語教育ⅠA）」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」を配置する。
- <英語>に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

機械工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観、継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行う。

分野横断的共通科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報系（情報処理、情報セキュリティ）の基礎教育を行っている。

機械の設計や開発を行う技術者となるために必要であり、基盤となる材料系（材料力学、材料学）、熱・流体系（熱力学、水力学）、運動系（機械運動学、機械力学）といった機械工学の専門知識を身につけるカリキュラムに加えて、ロボットやIoTを活用したシステムの構築や導入を行うために必要となる実践的かつ創造的なロボットテクノロジー科目（機械工学実習、メカトロニクス演習、電気・電子回路、アクチュエータ工学、制御工学、数値解析など）を系統的に配置している。また、ものづくりに必要とされる設計・製図（機械製図、機械設計製図、機械設計基礎、機械設計法）、加工（機械工作実習、機械工作法）の知識と技術を活用する課題解決型科目（総合実習、創造工学、卒業研究）を体系的に配置することで、次世代を担う機械系技術者に必要な能力を身につけられるようにする。第5学年では、学生自身が興味に合わせてデザイン可能な発展的な内容の科目（機械工学コース／メカトロニクスコース）を系統的に配置している。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

カリキュラム・ポリシー

【電気電子工学科】

電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示している。

- ＜視野＞に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。
- ＜技術者倫理＞に関連した倫理・社会系科目に加え、「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜意欲＞に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜基礎＞に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に関する対象科目を配置する。
- ＜専門＞に関連した自然科学および専門科目を配置する。
- ＜展開＞に関連した「電気電子工学実験」「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜発表＞に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学（留学生においては日本語教育ⅠA）」「創造工学」「卒業研究」を配置する。
- ＜英語＞に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

電気電子工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な教科からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観、継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行う。

分野横断的共通科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報系（情報処理、情報セキュリティ）の基礎教育を行っている。

また、電気電子工学分野の技術者となるために必要な電気磁気学（Ⅰ、Ⅱ）、回路系（電気回路（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）、電子回路（Ⅰ、Ⅱ））、エネルギー・機器系（電気機器、電力システム工学）、物性・デバイス系（電子物性基礎、半導体工学）、計測・制御・情報系（電気電子計測・電子制御基礎）、設計・製図（電気電子製図）などの専門知識が習得できるようにカリキュラムを構築している。そして、電気電子工学分野を主とした幅広い知識と技術を活用する課題解決型科目（創造工学、卒業研究（Ⅰ、Ⅱ））を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を身につけられるようにする。

電気電子工学の基礎から専門の科目に加え、その知識を活用できる電気電子工学実験や、電気主任技術者資格取得を念頭に置いた科目（電気法規など）を系統的に配置している。（特色部分）

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

カリキュラム・ポリシー

【電子情報工学科】

電子情報工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示している。

- ＜視野＞に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。
- ＜技術者倫理＞に関連した倫理・社会系科目に加え、「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜意欲＞に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜基礎＞に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に関する対象科目を配置する。
- ＜専門＞に関連した自然科学および専門科目を配置する。
- ＜展開＞に関連した「電子情報工学実験」「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜発表＞に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学（留学生においては日本語教育ⅠA）」「創造工学」「卒業研究」を配置する。
- ＜英語＞に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

電子情報工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な教科からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観を身につけた人材の育成を行う。分野横断的の共通科目として人文社会（国語、歴史、地理、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報処理の基礎教育を行う。またハードウェアやソフトウェアの設計開発を行う技術者となるために必要な基盤となる電気電子系、情報通信系といった電子情報工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。特にものづくりのための、ハードウェア、ソフトウェア及び両者の融合技術を活用する実験科目、課題解決型科目を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力を基礎から発展まで体系的に身につけられるようにする。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価方法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

カリキュラム・ポリシー

【生物応用化学科】

生物応用化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示している。

- ＜視野＞に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。
- ＜技術者倫理＞に関連した倫理・社会系科目に加え、「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜意欲＞に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜基礎＞に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に関する対象科目を配置する。
- ＜専門＞に関連した自然科学および専門科目を配置する。
- ＜展開＞に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。
- ＜発表＞に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学（留学生においては日本語教育ⅠA）」「創造工学」「卒業研究」を配置する。
- ＜英語＞に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

応用化学・生物工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観および継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行っている。

分野横断的の共通科目として、人文社会（国語、歴史、地理、倫理・社会、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学、地球生命科学）、情報系（情報処理、情報セキュリティ）、技術者倫理（技術者倫理入門）の基礎教育を行っている。

応用化学・生物工学に関する研究開発や品質・生産管理を行う技術者となるために必要な基盤となる基礎専門科目として、無機化学系（無機化学Ⅰ）、有機化学系（有機化学、高分子化学Ⅰ・Ⅱ）、物理化学系（物理化学Ⅰ・Ⅱ）、分析化学系（分析化学、機器分析化学、環境分析化学）、生物化学系（生物化学、基礎細胞生物学、微生物学、分子生物学）、および実験・実習（生物応用化学実験、情報処理応用）といった専門科目群（基本科目）をカリキュラムに配置している。これらの科目のうち、高分子化学、物理化学Ⅱ、分子生物学には、学生自身が興味やキャリア設計にあわせてデザイン可能な内容が系統的に配置されている。

さらに、素材・生産・環境を総合的に捉えられる創造性豊かな実践技術者に必要な能力を身につけられるよう、より専門的な応用化学・生物工学に関する共通・コース別専門科目として、工業化学系（無機化学Ⅱ、高分子化学Ⅱ、工業化学、生体・機能材料工学、界面化学）、化学工学系（化学工学、反応工学、生物・化学工学）、細胞工学系（細胞工学、タンパク質

化学)、遺伝子工学系(遺伝子工学)、実験・実習(応用化学・生物化学コース別実験)、課題解決型科目(創造工学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ)などの高い専門知識・技術を身につける専門科目群(展開科目)を4年次以降体系的に配置している。これらの科目のうち、生体・機能材料工学、界面化学、化学工学、反応工学、細胞工学、タンパク質化学、遺伝子工学、応用化学・生物化学コース別実験には、学生自身が興味やキャリア設計にあわせてデザイン可能な内容が系統的に配置されている。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

カリキュラム・ポリシー

【材料工学科】

材料工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、早い段階から専門教育を学修する以下のカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程系統図に示している。

<視野>に関連した外国語を含む人文・社会系リベラルアーツ科目を配置する。

<技術者倫理>に関連した倫理・社会系科目に加え、「技術者倫理入門」「卒業研究」「創造工学」を配置する。

<意欲>に関連した「卒業研究」「創造工学」を配置する。

<基礎>に関連した自然科学系リベラルアーツおよび専門科目、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に関する対象科目を配置する。

<専門>に関連した自然科学および専門科目を配置する。

<展開>に関連した「材料工学実験」「ものづくり実習」「卒業研究」「創造工学」を配置する。

<発表>に関連した「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学（留学生においては日本語教育ⅠA）」「創造工学」「卒業研究」を配置する。

<英語>に関連した外国語を含む人文・社会系科目を配置する。

材料工学を理解する幅広い知識を養うために、5年一貫の教養教育および実践的工学教育を様々な科目からなるカリキュラムによって効果的に行い、実践的・創造的技術者として将来活躍するための知識と技術、課題探求・問題解決能力などの総合的判断力、コミュニケーション能力や国際性、技術者としての倫理観、継続的・自律的に学習する能力を身につけた人材の育成を行う。

一般科目として人文社会（国語、政治・経済）、英語、数学、自然科学（物理、化学）、情報系（情報処理、情報セキュリティ）の基礎教育を行っている。

材料の設計や開発を行う技術者となるために必要な基盤となる金属材料系（金属材料、材料組織学）、無機材料系（無機材料、無機化学）、有機材料系（有機材料、有機化学）、材料物性系（基礎材料学）、物理化学系（熱力学、統計熱力学）といった材料工学の専門知識を身につけるカリキュラムを構築している。また、分析・評価系（材料力学、材料解析学）およびものづくりのための設計・製図、加工系（設計製図（Ⅰ、Ⅱ）、ならびに習得した知識と技術を活用する課題解決型科目（ものづくり実習、創造工学、卒業研究（Ⅰ、Ⅱ））を体系的に配置することで、次世代を担う技術者に必要な能力、倫理観と公正な態度を身につけられるようにする。

4年生以上の科目では、学生自身が興味に合わせてデザイン可能な発展的な内容の科目（非鉄金属材料、電気化学、有機反応化学、材料機器分析、設計製図Ⅴなど）を系統的に配

置している。

成績評価方法に関する方針

1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習および創造工学などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

カリキュラム・ポリシー

【総合イノベーション工学専攻】

総合イノベーション工学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の方針でカリキュラムを構成し、教育課程系統図に示している。

- <視野>に関連した科目（言語表現学特論、国際関係論等）を配置する。
- <技術者倫理>に関連した科目（技術者倫理）を配置する。
- <意欲>に関連した科目（特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ）を配置する。
- <基礎>に関連した科目（代数学特論、応用物理学等）を配置する。
- <専門>に関連した科目として、環境・資源コースでは、(海洋環境学、環境科学特論等)を配置する。エネルギー・機能創成コースでは、(次世代エネルギー工学、材料強度工学等)を配置する。ロボットテクノロジーコースでは、(実践メカトロニクス、制御機器工学等)を配置する。
- <展開>に関連した科目（総合イノベーション工学実験、特別研究Ⅰ、Ⅱ）を配置する。
- <発表>に関連した科目（特別研究Ⅰ、Ⅱ等）を配置する。
- <英語>に関連した科目（技術英語Ⅰ、Ⅱ、英語表現論等）を配置する。

成績評価方法に関する方針

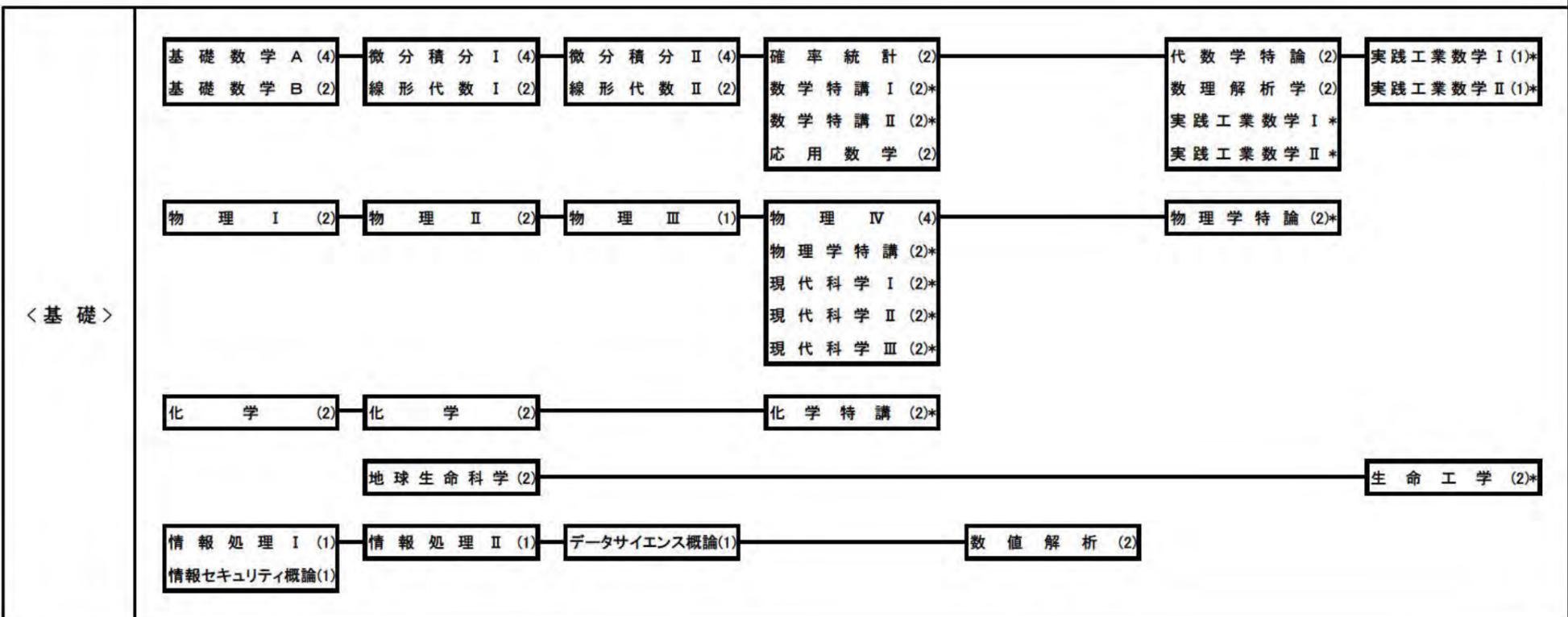
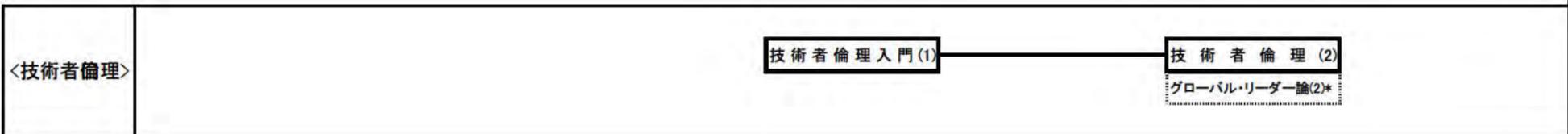
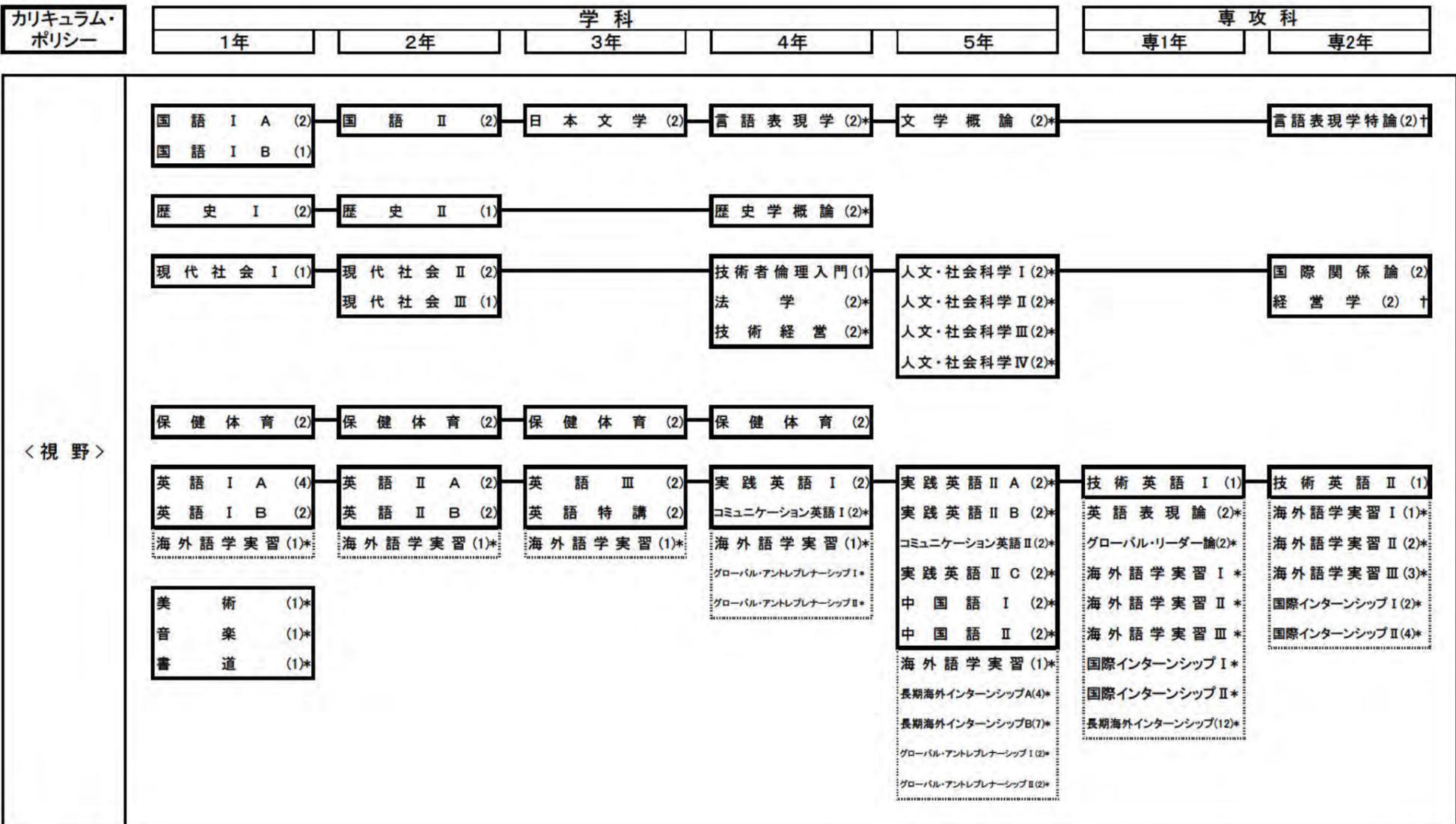
1. 講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、定期試験・演習・レポートなどの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2. 実技・実験・実習・演習およびグローバル・リーダー論などの実践的科目においては、課題への取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3. 特別研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢などを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。

成績の評価および単位認定基準

上記カリキュラムを構成している各科目の学修成果は、「成績評価方法に関する方針」に従った評価方法に沿って総合的に評価する。各科目における具体的な到達目標や成績評価法はシラバスに記入されている。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

教育課程系統図

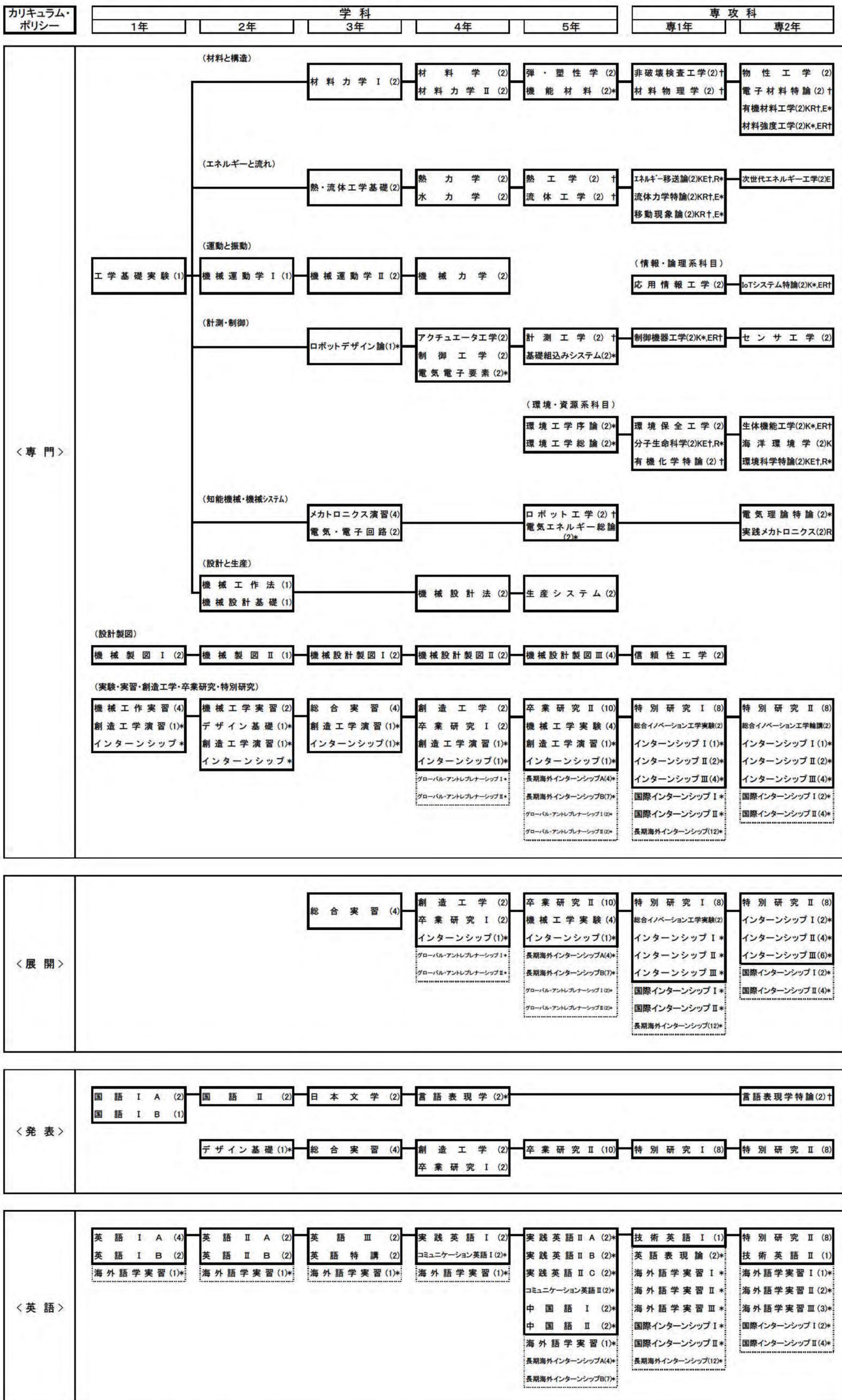
機械工学科1年～総合イノベーション工学専攻(学科R5年度以降入学, 専攻科R7年度カリキュラム)



□: 目標達成の証明科目 □: 他の目標の証明科目 †: 選択必修科目 * : 選択科目 無印: 必修科目

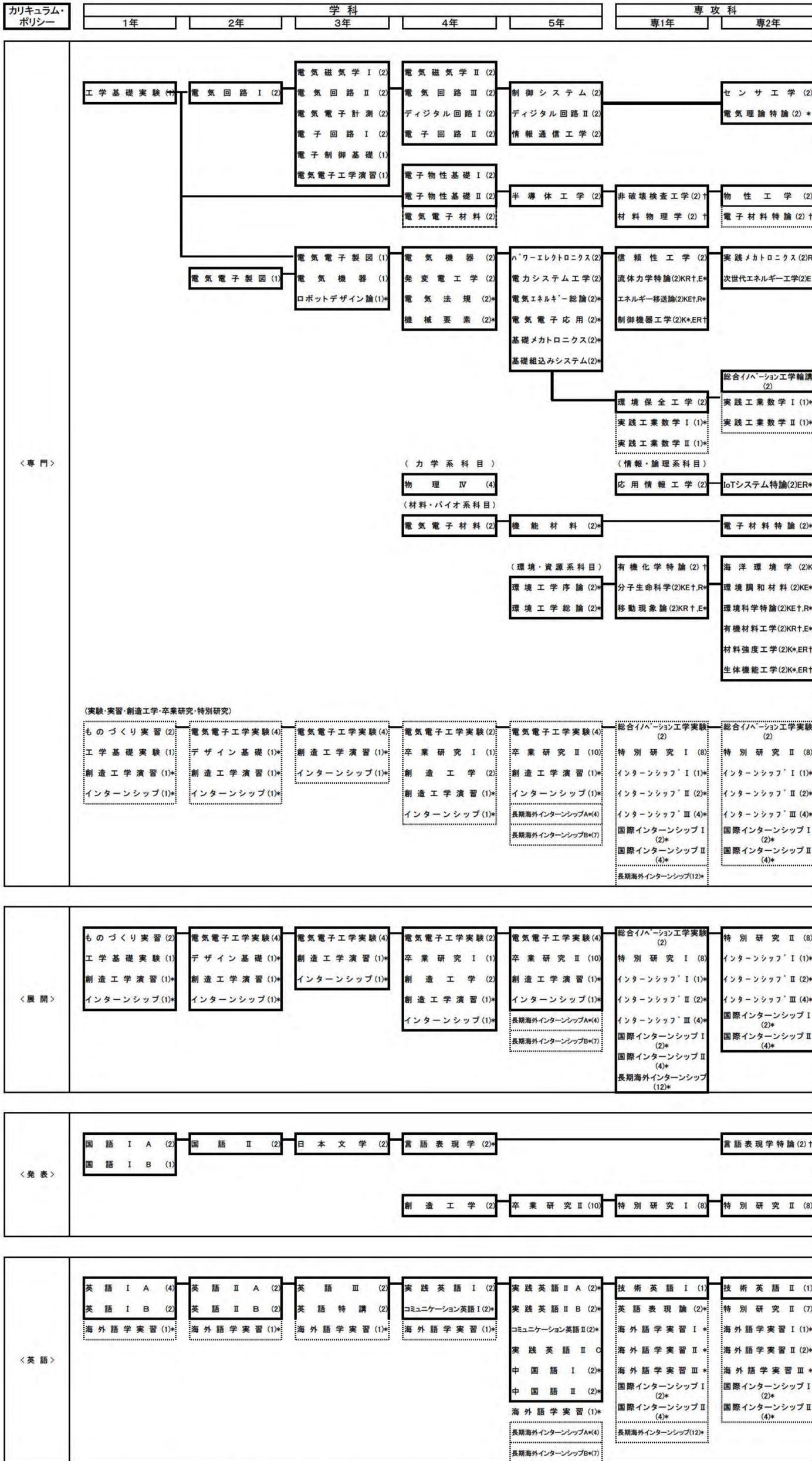
(次ページへ続く)

教育課程系統図
機械工学科1年～総合イノベーション工学専攻(学科R5年度以降入学, 専攻科R7年度カリキュラム) (つづき)



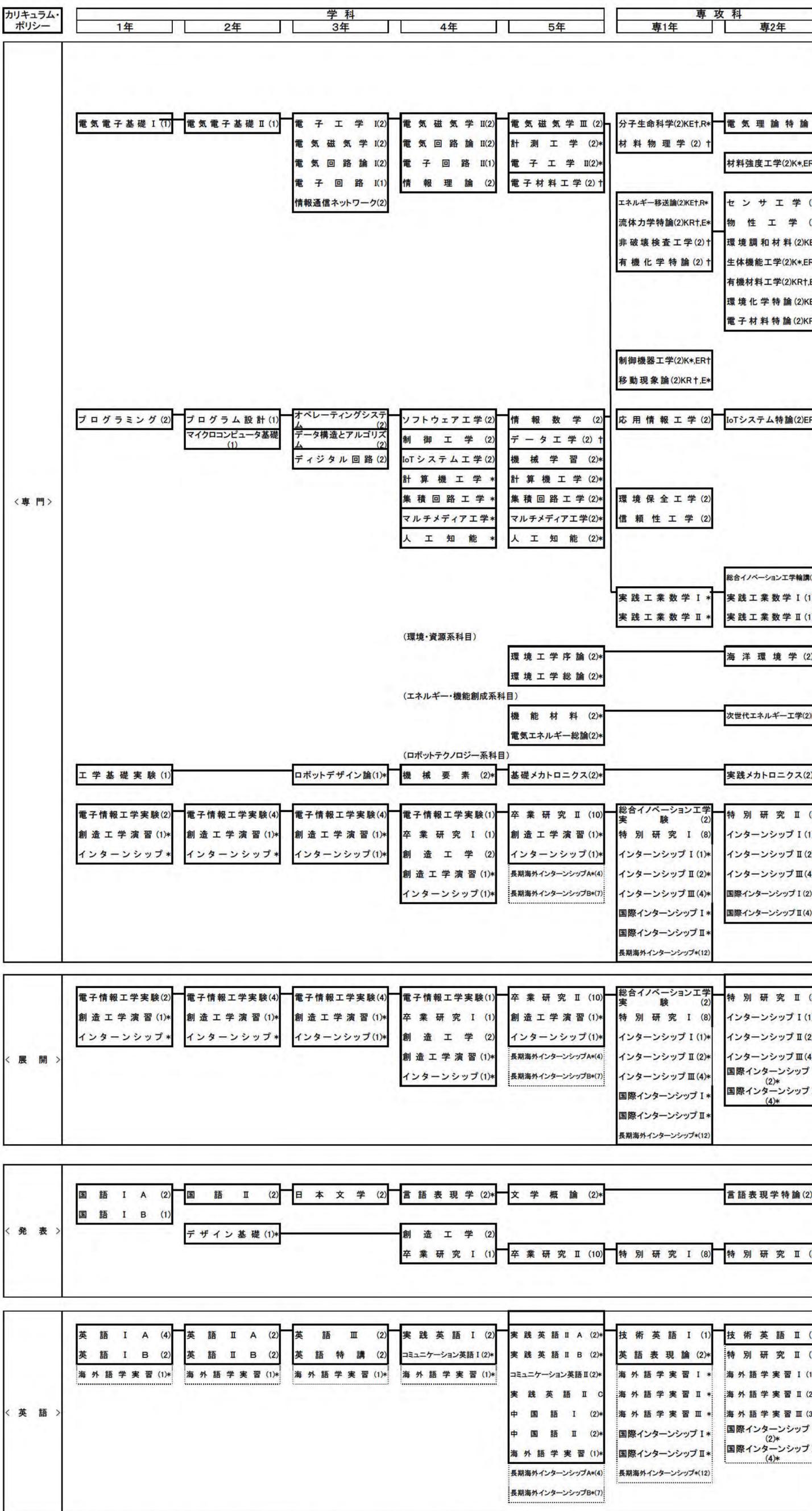
 : 目標達成の証明科目
 : 他の目標の証明科目
 † : 選択必修科目
 * : 選択科目
 無印: 必修科目
 K : 環境・資源コース
 E : エネルギー・機能創成コース
 R : ロボットテクノロジーコース

教育課程系統図
電気電子工学科1年～総合イノベーション工学専攻(学科R7年度, 専攻科R7年度カリキュラム) (つづき)



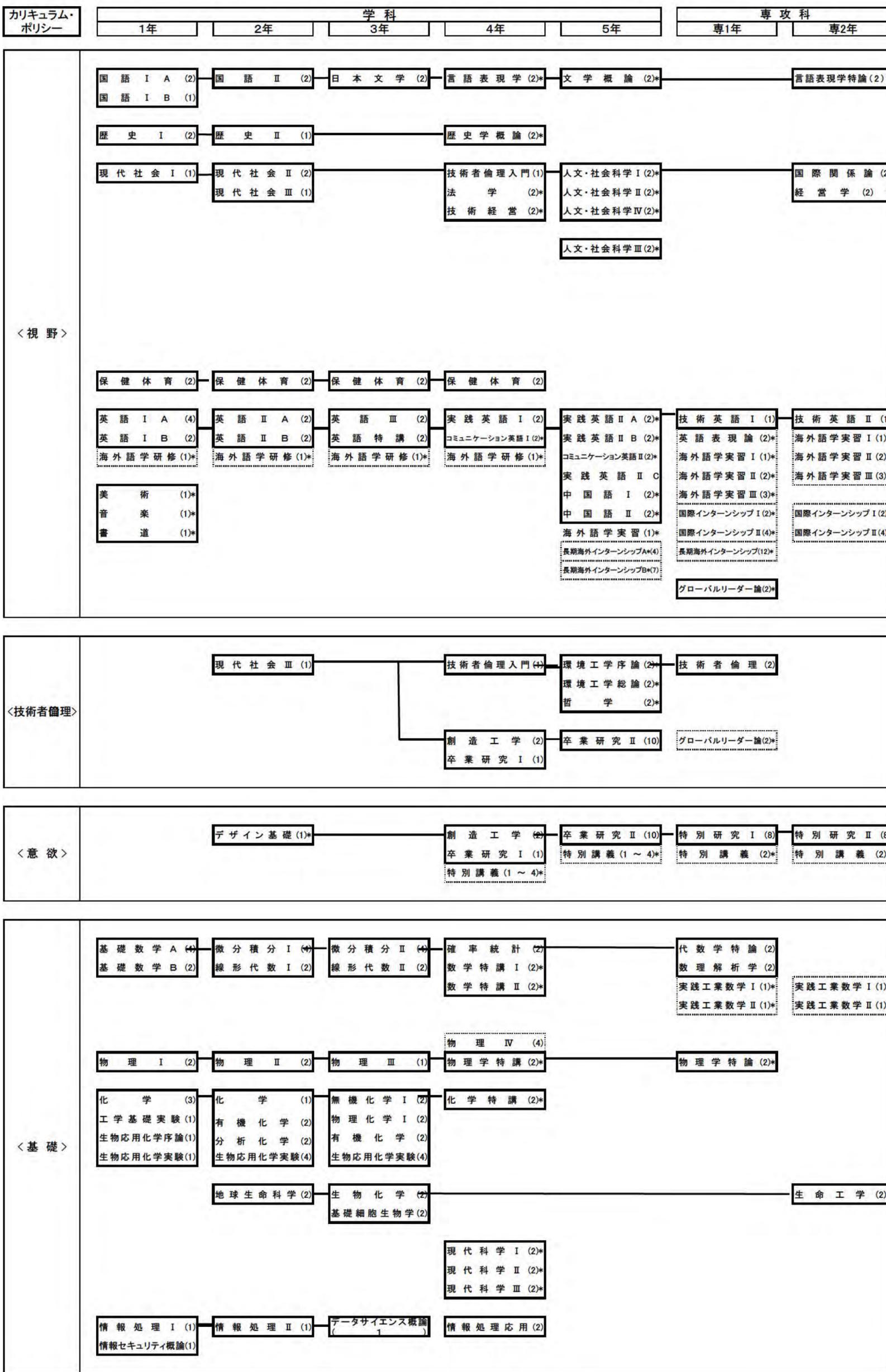
 : 目標達成の証明科目
 : 他の目標の証明科目
 無印: 必修科目
 †: 選択必修科目
 *: 選択科目
 K: 環境・資源コース
 E: エネルギー・機能創成コース
 R: ロボットテクノロジーコース

教育課程系統図
電子情報工学科1年～総合イノベーション工学専攻(学科R5年度以降入学, 専攻科R6年度カリキュラム)(つづき)



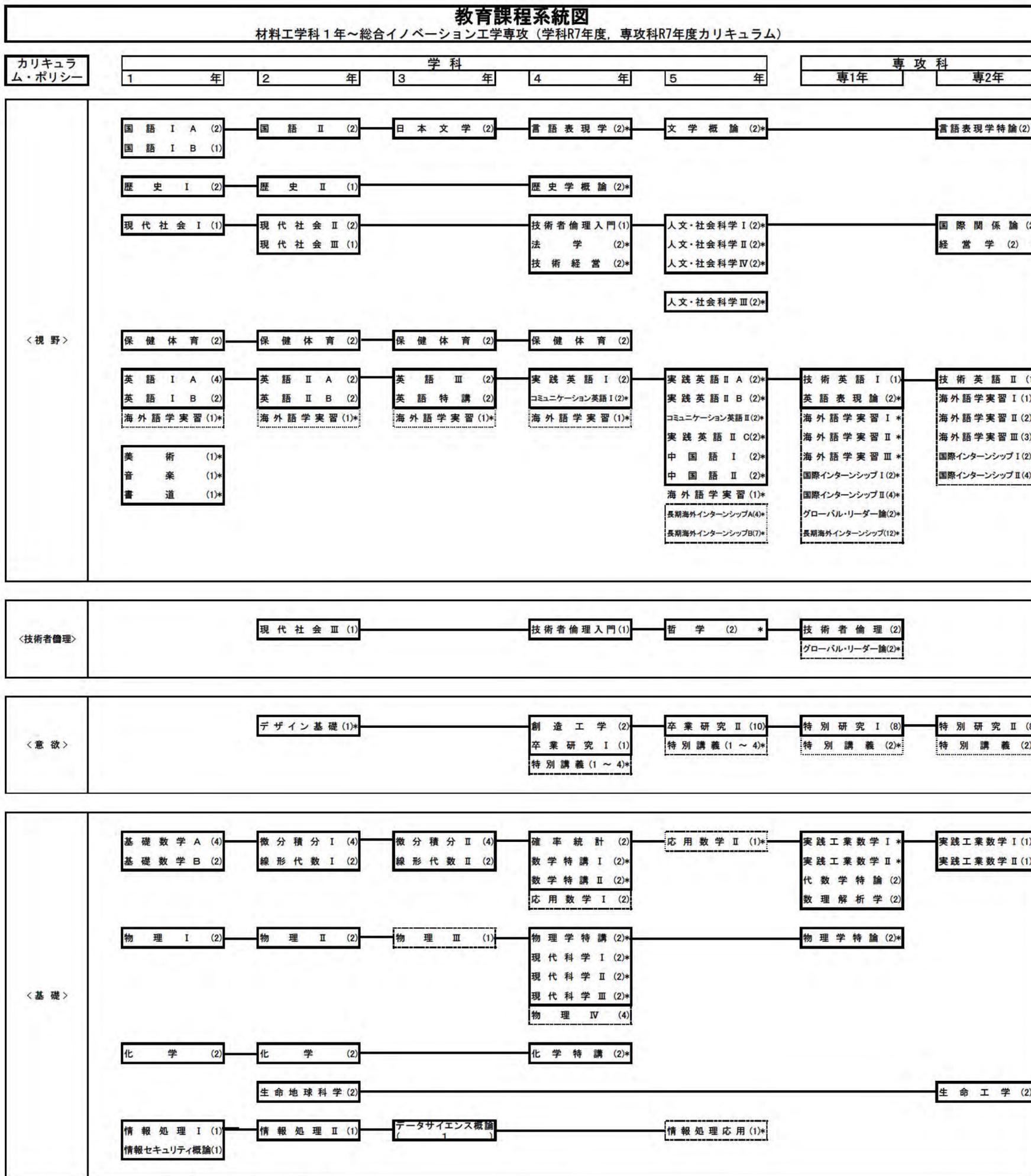
□: 目標達成の証明科目 □: 他目標の証明科目 無印: 必修科目 †: 選択必修科目 *: 選択科目
K: 環境・資源コース E: エネルギー・機能創成コース R: ロボットテクノロジーコース

教育課程系統図
生物応用化学科1年～総合イノベーション工学専攻(学科R7年度, 専攻科R7年度カリキュラム)



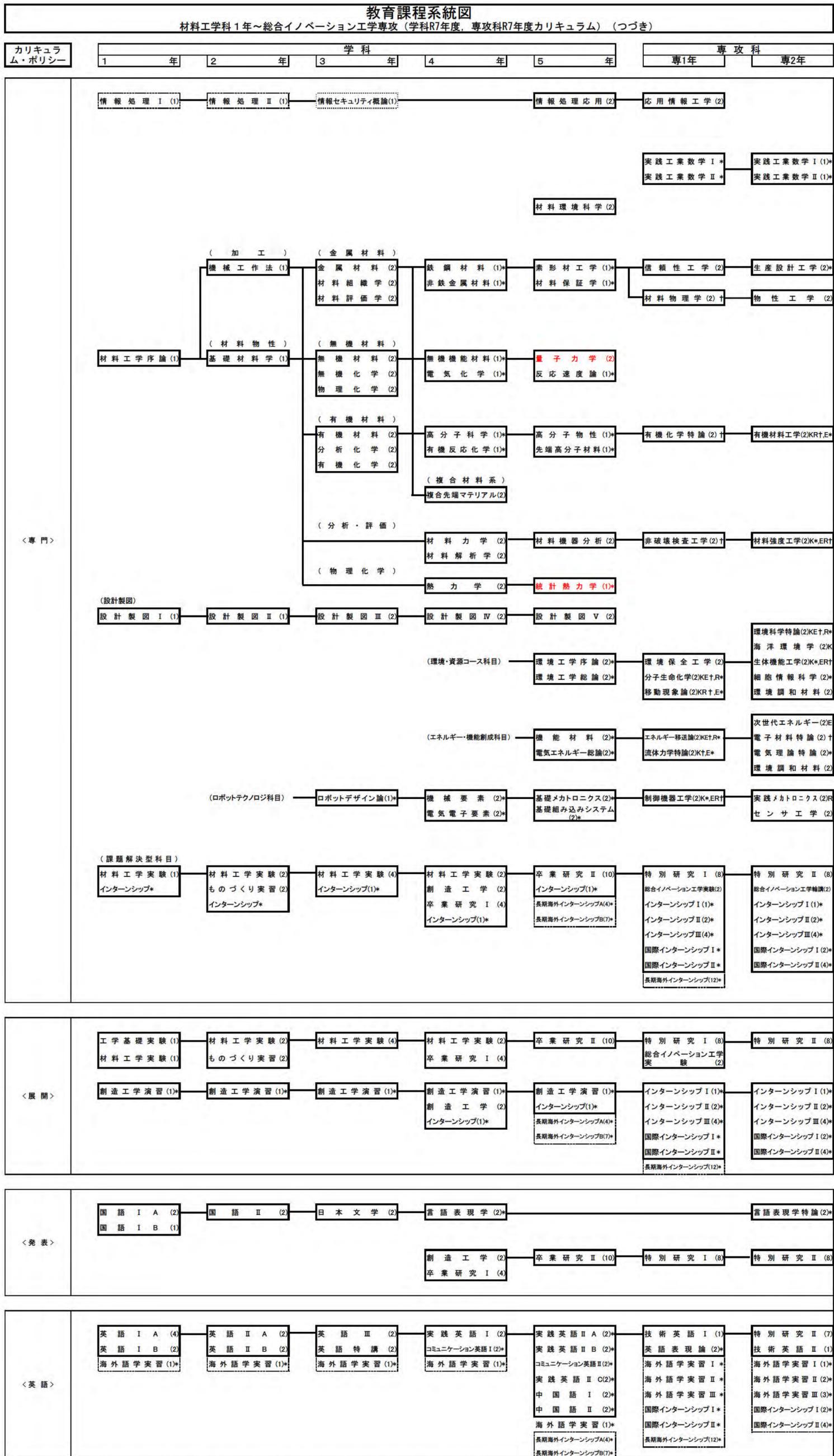
□: 目標達成の証明科目 □: 他の目標の証明科目 無印: 必修科目 †: 選択必修科目 *: 選択科目

(次ページへ続く)



□ : 目標達成の証明科目 □ (点線) : 他の目標の証明科目 * : 選択科目 無印 : 必修科目

(次ページへ続く)



 : 目標達成の証明科目
 : 他の目標の証明科目
 † : 選択必修科目
 * : 選択科目
 無印: 必修科目
 K : 環境・資源コース
 E : エネルギー・機能創成コース
 R : ロボットテクノロジーコース

○ 鈴鹿工業高等専門学校における授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則

〔平成 16 年 4 月 1 日〕
規則 第 8 号

最終改正令和 5 年 2 月 2 2 日

鈴鹿工業高等専門学校における授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則

(趣旨)

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）における授業科目の履修、単位の修得及び課程修了の認定は、この規則の定めるところによる。

(授業科目の履修・単位の修得の特例)

第 2 条 第 4 学年及び第 5 学年の学生は、別に定めるところにより、他学科の授業科目を履修し単位を修得することができる。

第 3 条 第 5 学年の学生は、当該学科の開設する第 4 学年の授業科目中履修しなかった科目又は修得できなかった科目を 5 単位まで修得することができる。

(大学等における学修申請等)

第 4 条 独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 29 条の規定のうち、大学の学修を本校における授業科目の履修とみなし、単位の認定を受けようとする者は、大学の授業を履修する前に別に定める大学における学修申請書を学科長の同意を得た上で、学生課教務係に提出し、教務主事の了解を得なければならない。単位修得後は別に定める大学における学修単位認定申請書を同係に提出しなければならない。

2 前項における学修単位認定申請については、教務委員会で審議するものとする。ただし、当該学科において同一内容の授業科目が開講されている場合については、申請した学修単位は認められないこともある。

(学業成績の評価)

第 4 条の 2 学業成績の評価については、別に定める評価基準によるものとする。

(単位の修得)

第 5 条 履修した授業科目の単位の修得は、次に掲げる要件をすべて満たさなければならない。

- (1) 履修した授業科目の評価が 60 点以上であること。
- (2) 履修した授業科目の欠席時数が授業時数の 5 分の 1 を超えないこと。

(課程修了)

第6条 課程修了は、次の各号に該当するものについて認定する。

- (1) 教育課程に定める学年の授業科目につき所定の単位を修得していること。
- (2) 次表に掲げる学年に対応した単位数を修得していること。

学年	修 得 単 位 数
1	必修科目の全単位
2	必修科目の全単位
3	必修科目の全単位
4	第1学年から第4学年の必修科目の全単位、選択必修科目の所定の単位及び選択科目の単位の合計が 134 単位以上
5	第1学年から第5学年の必修科目の全単位、選択必修科目の所定の単位及び選択科目の単位の合計が 167 単位以上 (専門科目 82 単位以上を含む。)

- (3) 特別活動の履修状況が良好であること。

(課程修了の認定)

第7条 前条の認定は、専任の授業担当教員で構成する修了認定会議の意見を聞いて、校長が行う。

第8条 前条により当該学年の課程の修了を認定された者は、進級又は卒業ができるものとする。

- 2 当該学年の課程の修了を認定されない者は原学年に留まり、第1学年から第3学年に留められた者(退学を申し出た場合を除く。)は当該学年の定められた修得単位数(第3学年は当該年度に学業成績「優」の評価を得た単位を除く。)、第4学年及び第5学年に留められた者は当該学年の定められた修得単位数のうち修得できなかった単位を修得するものとする。この場合において、第4学年に留められた者は第5学年の単位(「卒業研究Ⅱ」は除く。)を修得できるものとする。

(追認試験)

第9条 追認試験は、次の各号に掲げる要件をすべて満たさなければならない。

- (1) 追認試験の結果によって課程修了の認定ができること。
- (2) 履修した授業科目のうち、第5条に掲げる要件の第2号を満たすこと。ただし、実技、作品、報告書及び論文等により学業成績を評価する授業科目については、含めないものとする。
- (3) 第1学年から第3学年にあつては2科目又は4単位を超えないこととし、第4学年及び第5学年にあつては4単位を超えないこととする。ただし、令和5年度以降に入学した学生の第9条第1項に係る第1学年から第5学年に関する追認試験の取扱いは、以下のいずれかを満たすものとする。

- 1) 2科目以内であること。
- 2) 4単位以内であること。

ただし、学修単位は2分の1倍した単位数とする。

- 2 追認試験の結果により、当該科目の単位を認定することができる。
- 3 その他追認試験に関する事項については、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 14 年度以前の入学者にかかる修得単位数については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 2 月 12 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 5 月 7 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行し、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 8 条第 2 項は、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	デザイン基礎	
科目基礎情報					
科目番号	0037	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教員ごとに個別に指定				
担当教員	全学科 全教員				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的を理解したうえで、研究計画を構築し、計画に沿って自律的な研究活動を行うことができる。 2. グループで共同して研究活動を行うことができる。 3. 調査計画の過程及び結果を適切に報告することができる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	指導教員と相談の上で研究計画を構築し、計画に沿って自律的な研究活動を行う。また研究の過程においても、より良い研究活動のために研究計画を見直し再構築した上で研究を行うことができる。	指導教員と相談の上で研究計画を構築し、計画に沿って自律的な研究活動を行うことができる。	構築した研究計画に沿って自律的な研究活動を行うことができない。		
評価項目2	指導教員・同じテーマの学生とグループで十分なコミュニケーションをとり、円滑な研究活動を行うことができる。	指導教員・同じテーマの学生とグループでコミュニケーションをとり、研究活動を行うことができる。	指導教員・同じテーマの学生と必要なコミュニケーションが取れずに、共同研究活動を行えない。		
評価項目3	活動報告(日報)、最終報告(レポート)などによって、研究の過程や研究成果を分かりやすくまとめ報告することができる。	活動報告(日報)、最終報告(レポート)などによって、研究の過程や研究成果を報告することができる。	活動報告(日報)、最終報告(レポート)などによって、研究の過程や研究成果を報告をすることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本授業では、研究におけるテーマ設定、計画立案、遂行、修正、計画再立案などの経過を経て研究成果を得ること、また成果をレポート形式でまとめる経験を通して一連の研究を設計(デザイン)する能力を身に付ける。技術者としての課題設定能力、自律的に取り組む力、研究結果を読み手を意識する形でまとめる能力を育成する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容は、学習・教育到達目標(C)＜発表＞に対応する。 ・ 授業ガイダンスを実施の上で、前期期間中に指導教員への配属を決定する。学生は各指導教員の元でテーマを設定し、計画的・自律的に研究を進めること。グループでの研究活動であったとしても個々に活動報告(日報)を指導教員に提出すること。 ・ 研究活動は授業時間内に限らないこととする(授業時間外に実施した場合、授業時間に関しては振替休講)。詳細は指導教員と打ち合わせを行うこと。なお、本授業における総活動時間は最低22.5時間(授業ガイダンス2時間、研究活動振り返りアンケート1時間を含む)である。 ・ 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 				
注意点	<p><達成目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」を活動報告、提出されたレポートにより評価する。活動への取り組み状況は活動報告(日報)などを元に指導教員が評価する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>日報及びレポートの内容を100点満点で評価し、それぞれに70%、30%の重みをもたせ最終評価を行う。満点の60%の得点で、目標の達成を確認する。</p> <p><単位修得要件>最終評価で60点以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲>2年生前期までの授業で学習する基礎的、基本的な内容が必要である。</p> <p><レポート等>活動報告(日報)は活動日に指導教員に提出すること、最終報告となるレポートは指導教員の指示する形式で作成し、指導教員に提出すること。</p> <p><備考>全体で共通の資料はmoodleを利用して配布するので各自で確認すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的を理解したうえで、研究計画を構築し、計画に沿って自律的な研究活動を行うことができる。 2. グループで共同して研究活動を行うことができる。 3. 調査計画の過程を適切に報告することができる。また研究結果をレポートにまとめ報告することができる。 	
		2週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		3週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		4週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		5週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		6週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		7週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		8週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
	4thQ	9週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		10週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		11週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		12週	個別のテーマにおける研究活動	上記1.～3.	
		13週	最終報告(レポート) 準備	上記1.～3.	

		14週	最終報告(レポート) 準備	上記1. ~3.	
		15週	最終報告(レポート) 準備	上記1. ~3.	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		活動報告(日報)	最終報告(レポート)	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	
専門的能力		0	0	0	
分野横断的能力		0	0	0	

デザイン基礎テーマ一覧

2024年度 デザイン基礎 テーマ・人数一覧

通番	所属	担当者	テーマ名	概要	受入人数		決定者数
					最小	最大	
1	G科		文学の本質に迫る	作品を読むだけではなく、文学館、作品の舞台など多面的な視点から文学の本質に迫ってみましょう。文学好きな学生集まれ。	なし	なし	11
2	G科		鉄道に関して調べて発表しよう	2人組（他学科でも可）とします。鉄道に興味がある人、電車で旅行へ行きたい人を「2人組」で募集します。鉄道車両や施設について調べたり、時刻表を見て珍しい電車を調べたり、青春18きっぷなどのフリー切符を使って旅行計画を立てたりして、パワポを作りみんなの前で発表してもらいます。鉄道に関するものであれば、テーマは2人で相談して自由に設定できます。	4人（2組）	16人（8組）	12
3	G科		心理学+歴史学（哲学・宗教学）+民俗学 = 自分を知る・未来を創る	○毎回の進め方（授業90分×6回その1・授業90分×6回その2・最終提出課題90分×4回） ①心理学テスト～とにかくまずは気軽に！→自分のことを知るきっかけを掴む（ウェブ+プリント+実践=10分） ②心理学トークスキルアップ～心理学を駆使してコミュニケーション能力を高めよう！→伝わりやすい表現・言い換え表現について学ぶ（プリント+実践=10分） ③ストレスレスストレッチ～体が軽くなれば心も軽くなる！→教室で出来る簡単ストレッチを行う（プリント+実践=10分） ④歴史学（哲学・宗教学）～あの人はこんなことを言ってくれている！→歴史上の偉人の名言について知る（動画+プリント+実践=10分） ⑤民俗学～あの話の裏側にはこんな教訓と恐怖が！→昔話から教訓を得てその原型を知る（動画+プリント+実践=15分） ⑥心理学ワークトライ～より詳しく自分の深層心理に迫ろう！→実際に役に立つ心理学を身に付け、EQ（心の知能指数）を高める（プリント+実践=30分・以上6点を授業計6回分その1） ⑦「推し1（ワン）グランプリ」～応用ステップアップ！→自分が大好きなものを1つ選んで、それをメンバーに向けてとにかく推すプレゼンを行う（資料作成や発表=90分・以上2回を授業計6回分その2） ⑧自己取扱説明書の作成の課題～少しずつ自分を知ってより良い未来を創ろう！→自分で自分の分析を行う（最終提出課題=90分・以上を定期試験前週及び定期試験週の各2回授業計4回分） ・毎日日報（5分）と上記プリントを全て書いてファイルに入れて提出（ファイルは教室に保管） ・自己取扱説明書は学年末の答案返却時に返却・配布物と自己取扱説明書を入れるファイル（こちらが準備+名前シール） →全ての回が終わった頃には自分で自分をより良くわかり、それを踏まえてより良い未来が開けているかも…！ファイルは過去と現在と未来の自分を知る宝のファイルに…！	16人	16人	16
4	I科		バイオメカニクス入門	人間の体の動きを計測し解析する体験を行います。モーションキャプチャ、床反力、表面筋電位、加速度、角速度などを計測予定。Google無料クラウドPythonサービスColaboratory上でプログラミング言語Pythonを用いた解析を体験。学生の専門分野に応じた内容を行い、バイオメカニクス研究の面白さを体験してもらうことが目標です。	なし	なし	8
5	I科		高専発！！生駒さんと実際に現役学生でスタートアップ目指してみませんか	AVEX社生駒さんによる価値ある起業を目指すための各種講義やグループワークを行います。自分たちで起業アイデアを考え、バーチャル企業の事業計画書を作成します。昨年度は学科を問わず7名の学生が参加し、最後には工場見学も行いました。ぜひ多数の参加まっています。	なし	20人	6
6	E科 G科		アイデアを特許にしよう！	アイデアの創出、その特許性の評価を行い、INPITハナンドコンテストでの入賞（特許出願支援有）を目指します。この目標に向け、校内パテントコンテストへの応募、特許検索大会への参加を行い、発明や特許についての理解を深めます	なし	10人程度	5
7	G科		映画の誘惑	英語で映画鑑賞、および映画についてのプレゼンテーションを行う	なし	10人	9
8	G科		和紙を学ぼう	日本の伝統的な和紙についての調べ学習をするとともに、実際に色々な材料で紙漉きをしたり、できた和紙を調べたりします。和紙に関する資料館へ行くことも考えています。	2人	4人	5
9	I科		水素社会実現に向けた社会インフラ構築のための新しい高専間協働教育	各高専のGEAR5.0 エネルギー・環境ユニットのリーダー及びユニットサブリーダー等の教員がオムニバス形式で水素社会実現に向けた社会インフラ構築のための総合的な工学教育を行う。具体的には、機械、電気電子、化学、情報、材料、環境都市など、総合知を身につける。水素に関連した様々なフィールドワークも行う予定である。	3人	10人	3
10	G科		数学セミナー	まず、勉強したいテーマや本(数学または物理関係)を決めます。その後、実際に勉強してもらい、勉強の成果を定期的に発表していただきます。	3人	3人	3
11	S科 G科		立体錯視に挑戦！	見る角度によって形が変わる…そんな図形を見たことがありますか？上り続ける階段、見る角度によって円形に見えたり四角形に見える立体…本テーマでは、このような錯視の起きる理由を考え理解したうえで、実際に立体錯視をおこす物体をデザインし、3Dプリンターを利用し形にしていきます。なお、授業の成果により近隣の小中学校における出前授業や学会発表をおこなう予定です。楽しく頑張りましょう。	なし	12人	22
12	C科 G科		自然・雪上で遊ぶことの楽しさ・大切さを考える	自然環境下（砂浜・雪上を予定）に体を使って遊ぶことの楽しさ・大切さを実際に体を動かして体験・思考する	なし	34人	17

デザイン基礎テーマ一覧

通番	所属	担当者	テーマ名	概要	受入人数		決定者数
					最小	最大	
13	G科		テーマ自由	研究のやり方を学んでもらうことが主眼なので、テーマはなんでも良いです。各自で考えてもらいます。	なし	なし	34
14	G科		効果的なバレーボール指導技術に関する考察	バレーボール初心者や子どもに対して、プレーに必要な動作を教える際に効果的な「声掛け（言語表現）」や「例示（手本となる動作）」について、互いの実践の中で考察することによって、バレーボールはもとよりそれ以外の日常活動においても他人を支援するためのコミュニケーション技術を向上させることを目的とします。受講に際しては、互いに模範動作を行うことなどを考慮し、バレーボール経験を有する学生を優先します。	4人	12人	11
15	G科		エクセルを用いた感染症モデルの作成	エクセルを用いて感染症モデルを作成します。	3人	6人	2
16	G科		英語で物語を読もう	図書館で各自が選んだ物語を精読し、それについて英語でレポートを書き、発表してもらいます。	1人	5人	3
17	G科		操体法を用いて筋肉のバランスを探求する	筋肉を操作して、可動域のバランスを整える。	なし	40人	24
18	G科		尾鷲で地域おこしを体験しよう	尾鷲でのフィールドワークを通じて、地域の課題や地方創生について学びます	なし	6人 (応相談)	11
19	G科		演劇研究会（劇研！）	国内・海外問わず、演劇や舞台芸術に関わることなら何でもテーマになります。演劇でもミュージカルでもバレエや歌舞伎でも、作品を取り上げて鑑賞したり研究するもよし、実際に演じてみるもよし、舞台美術や劇場建築、音響や照明の電気系統のことを調べてみるもよしです。集まったメンバーでどんな方向性でやるか考えて決めましょう。	なし	なし	5
20	G科		コーパスを使ってみよう	「コーパス」とは言語資料の集積を指します。その昔、言語資料は用例カードに一枚一枚書き込んで集めていました。現代では数億語のコーパスがコンピュータを用いて処理され、辞書編纂や言語教育に大いに役立っています。本研究では、実際に日本語/英語コーパスを使って用例を集め、それらを観察することでどのようなことが言えるのかを考えます。	なし	20人	1
21	G科		対称性の美しさを科学する（群と様々な実例）	200年近く前、フランスの天才少年エヴァリスト・ガロアは、群と代数方程式に関する全く新しい理論を編み出しました。ガロア理論は、現代数学の金字塔として今なお輝き続けています。様々な「群」を通して、対称性の持つ美しさを学んでいきたいです。	2人	4人	2
22	G科		回転玩具の性能向上	コマやブーメラン、竹とんぼ等の特性を調べその性能を向上させる方法を調べる。	なし	3人	2
							合計212人

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	創造工学
科目基礎情報					
科目番号	0087		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: プリント配布。参考書: 1, 2 学年「機械工作法」の教科書, 「はじめてのロボット創造設計」(米田, 講談社) など。				
担当教員	機械工学科 全教員				
到達目標					
習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し, 習得した知識をもとに創造性を発揮し, 限られた時間内で仕事を計画的に進め, チーム内で成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握し, 解決に向けて自律的に学習できる。	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握して解決に向けて努力できる。	テーマを進める上で準備する事柄を認識したり, 解決すべき課題を把握することができない。		
評価項目2	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進める共に, 自ら創意工夫できる。	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進めることができる。	ゴールを意識して, 計画的に課題を進めることができない。		
評価項目3	中間および最終発表において理解し易く工夫した発表と討論を行えると共に, 論理的に記述した報告書を期限内に提出できる。	中間および最終発表において発表と討論を行えると共に, 報告書を期限内に提出できる。	中間および最終発表において発表と討論を積極的に行えず, 十分なレベルと分量の報告書を期限内に提出できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	「魅力的な製品」の実現を目指して学生自ら技術的課題と目標を設定し, 期日や材料の制限下で実現可能性を考慮に入れた仕様・計画の立案, 設計・製作を完遂する。一連の過程を通して, 解決すべき課題の発見と解決手法を実践的に体験する。技術者としてのモチベーション(意欲, 情熱, チャレンジ精神など)を涵養し, これまでに学んだ学問・技術の応用能力, 課題設定力, 創造力, 継続的・自律的に学習できる能力, プレゼンテーション能力および報告書作成能力を育成する。実習を通して創造力の幅を広げ, より高度な設計技術, エンジニアリングデザイン能力を実地で身に付ける。この科目は顧客のニーズに応じた実践的な製品開発の一連のプロセスを実習形式で体験する授業である。企業で産業用ロボット, シーケンサー(PLC)などを用いた自動生産設備の開発を担当していた教員を中心として機械工学科全教員で担当する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第1週の内容は, 学習・教育到達目標(A)〈視野〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉に対応する。 ・第2週, 第3週の内容は, アイデア討論, 仕様策定および概略設計, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する。 ・第4週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する。 ・第5週から第14週までの内容はすべて, 学習・教育到達目標(A)〈意欲〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する。 ・第15週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する。 ・授業は講義・実習形式で行う。講義中は集中して聴講し, 実習中は安全に注意して真剣に取り組む。 ・クラスを班(各班2~5名)に分け, 指定された大枠のテーマを満たす「魅力的な製品」を各班で1台ずつ製作する。 ・考案, 仕様策定, 計画立案, 設計・製作, プレゼンテーションを班員全員で協力して行う。 ・製作する製品はセンサやスイッチなどを入力とし, 電気モータやエアシリンダを動力とする。動力およびアルミ材など, 最低限必要な材料は支給する。 ・エンジニアリングデザインに関する実践的な知識や経験に関する講義を行なう。学内パテントコンテストへの参加も強く推奨する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 「到達目標」1~6の習得の度合いを中間および最終発表会のプレゼンテーションと完成した成果物と最終報告書で評価する。100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように, それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定し, 中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として評価する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準> 中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として100点満点で評価する。</p> <p><単位修得要件> 学業成績の評価方法によって, 学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 本教科は「機械工作実習」, 「総合実習」の学習が基礎となる教科である。以上の科目に加え, 設計製図, 機械加工学, コンピュータプログラミング等の基礎知識も必要である。</p> <p><レポート等> 学期末に, 製作した成果物のアイデア, 機構, 図面をまとめたレポートを各人1部提出する。</p> <p><備考> 本教科は後に学習する「卒業研究」, 「特別研究(専攻科)」の基礎となる教科である。第3学年の「総合実習」で行ったロボット製作よりも高度な技術が要求される一方, 製作に当てられる時間数が少ないため計画にしたがって効率的に作業を行う必要があり, チームワークが重要である。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容および自動制御に関するガイダンス	1. 顧客の要望するニーズの本質を理解するために問題を掘り下げて考察することができる。	
		2週	アイデア討論	2. ニーズに応えられる現実的なソリューションを積極的に多角的な視点に基づいて議論できる。	
		3週	仕様策定および概略設計	3. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習できる。	

創造工学シラバス(機械工学科)

2ndQ	4週	アイデア発表会	4. 理解しやすく工夫した発表と的確な討論を行なえる。
	5週	詳細設計(1)	上記1から3 5. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習できる。 6. テーマを進める過程で自ら創意・工夫できる。
	6週	詳細設計(2)	上記1から6
	7週	詳細設計(3)	上記1から6
	8週	課題製作(1)	上記1から6 7. ゴールを意識し、計画的に課題を進められる。
	9週	課題製作(2)	上記1から7
	10週	課題製作(3)	上記1から7
	11週	課題製作(4)	上記1から7
	12週	課題製作(5)	上記1から7
	13週	課題製作(6)	上記1から7
	14週	課題製作(7)	上記1から7
	15週	成果発表会	8. 報告書を論理的に記述し、期限内に提出できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3		
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3		
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3		
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3		
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3		
			複数の情報を整理・構造化できる。	3		
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2				
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3				
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3				
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3				
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3					
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3					
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3					
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3		
			目標の実現に向けて計画ができる。	3		
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3		

創造工学シラバス(機械工学科)

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	

評価割合

	発表(中間)	発表(最終)	報告書	課題作品	合計
総合評価割合	15	5	75	5	100
配点	15	5	75	5	100

創造工学シラバス(電気電子工学科)

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	創造工学
科目基礎情報					
科目番号	0072		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	学科から提案された課題については適宜、参考書・プリント等を配布する。				
担当教員	電気電子工学科 全教員				
到達目標					
習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し、習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論することができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		自らのアイデアで創造作品を発案できる。	創造作品を発案できる。	創造作品を発案できない。	
評価項目2		創造作品の製作に必要な技術や情報について積極的に調査し、設計に活かすことができる。	創造作品の製作に必要な技術や情報について調査し、設計に活かすことができる。	創造作品の製作に必要な技術や情報について調査したり、設計することができない。	
評価項目3		責任感を持ってグループ内で協調して課題解決に取り組むことができる。	グループ内で協調して課題解決に取り組むことができる。	課題解決に取り組むことができない。	
評価項目4		設計仕様に基づいて創造作品を製作するだけでなく、より良い作品作りを心掛けている。	設計仕様に基づいて創造作品を製作できる。	設計仕様に基づいて創造作品を製作することができない。	
評価項目5		創造作品についての的確な図や文章を用いて報告できる。	創造作品についての図や文章を用いて報告できる。	創造作品についての図や文章を用いて報告できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造性・独創性を培う具体的工学教育の基礎をもの造りと位置づけ、自ら設定した課題あるいは提案された課題について取り組み、その実現のために解決すべき課題の発見とその解決のデザインを体験する。この過程を通して、技術者としてのモチベーション(意欲、情熱、チャレンジ精神など)を高めるとともに、これまで学んできた学問・技術の応用能力、課題設定力、創造力、継続的・自律的に学習できる能力、プレゼンテーション能力および報告書作成能力を培う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は、学習・教育到達目標(B)<専門>に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」の習得の度合いを、テーマ発表(10%)、中間発表(10%)、最終発表(25%)、課題報告書(50%)、課題作品(5%)により評価し、100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように、それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>テーマ発表を10%、中間発表を10%、最終発表を25%、課題報告書を50%、課題作品を5%として評価し、100点満点で評価する。</p> <p><単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲>課題に関連する工作技術や基礎的な電気・電子回路等の周辺技術、知識があることが望ましい。しかし、それが無くても意欲的に関連知識の吸収に心がけること。本教科は、倫理・社会の学習が基礎となる教科である。</p> <p><レポート等>授業内容の項で示した 1. 実施概要計画書, 2. 概要・実施計画の発表会(テーマ発表会), 3. 課題報告書, 4. 最終発表, 5. 課題の制作 などを実施する。</p> <p><備考>本授業では各班・各自の考えで独特のものを作り出すことにある。自ら積極的・意欲的に取り組む姿勢が要求される。なお、工作等では怪我のないよう十分注意する。本授業では学外のエンジニアを講師として招き、エンジニアリングデザインに関する実践的な知識や経験に基づいたテーマに対する助言を受けることができる。本教科は、後に学習する卒業研究の基礎となる教科である。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス(授業の目的、意義の主旨および授業方針、発表会とレポート提出の説明)、班分け、テーマの決定、課題に関する情報収集 <展開>	1. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し、継続的に学習することができる。	
		2週	テーマ発表会、課題に関する情報収集 <展開> <発表>	2. テーマ発表会と最終発表において、理解しやすく工夫した発表をすることができ、的確な討論をすることができる。	
		3週	実施方法(実施概要計画書の作成、全体設計図、部品図、PDA仕様等の作成、材料注文書の提出) <専門> <展開>	3. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習することができる。 4. テーマのゴールを意識し、計画的に課題を進めることができる。 5. テーマを進める過程で自ら創意・工夫することができる。	
		4週	課題作成(部品の加工、部品の組立作業、PDAミキ) <展開> <意欲>	上記3, 4, 5	
		5週	課題作成 <展開> <意欲>	上記3, 4, 5	
		6週	課題作成 <展開> <意欲>	上記3, 4, 5	
		7週	課題作成 <展開> <意欲>	上記3, 4, 5	

創造工学シラバス(電気電子工学科)

2ndQ	8週	課題作成 〈展開〉〈意欲〉	上記3, 4, 5
	9週	改良点等の検討 〈意欲〉〈展開〉	上記3, 4, 5
	10週	課題作成(改良・検討) 〈意欲〉〈展開〉	上記3, 4, 5
	11週	課題作成(改良・検討) 〈意欲〉〈展開〉	上記3, 4, 5
	12週	課題作成・製作品についての電気的特性の測定, 計算 精度の評価等の実験と性能検査 〈意欲〉, 〈展開〉	上記3, 4, 5
	13週	課題作成・製作品についての電気的特性の測定, 計算 精度の評価等の実験と性能検査 〈意欲〉, 〈展開〉	上記3, 4, 5
	14週	課題完成・レポート作成 〈展開〉〈発表〉〈意欲〉	6. 報告書を論理的に記述することができる。
	15週	課題報告書提出・最終発表会 〈専門〉〈展開〉〈発表〉〈意欲〉	上記2, 6
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3		
			他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3		
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3		
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3		
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3		
			複数の情報を整理・構造化できる。	3		
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3		
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3		
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3		
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3				
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3				
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	3				
	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3				
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。				3		
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。				3		
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。				3		
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3					

創造工学シラバス(電気電子工学科)

			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	3	
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	
			提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	3	
			経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合

	テーマ発表	中間発表	最終発表	課題報告書	課題作品	合計
総合評価割合	10	10	25	50	5	100
配点	10	10	25	50	5	100

創造工学シラバス(電子情報工学科)

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	創造工学
科目基礎情報					
科目番号	0085		科目区分	専門/必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	教科書: プリント配布. 参考書: 1, 2 学年「機械工作法」の教科書, 「はじめてのロボット創造設計」(米田, 講談社) など.				
担当教員	電子情報工学科 全教員				
到達目標					
習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し, 習得した知識をもとに創造性を発揮し, 限られた時間内で仕事を計画的に進め, チーム内で成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握し, 解決に向けて自律的に学習できる.	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握して解決に向けて努力できる.	テーマを進める上で準備する事柄を認識したり, 解決すべき課題を把握することができない.		
評価項目2	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進める共に, 自ら創意工夫できる.	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進めることができる.	ゴールを意識して, 計画的に課題を進めることができない.		
評価項目3	中間および最終発表において理解し易く工夫した発表と討論を行えと共に, 論理的に記述した報告書を期限内に提出できる.	中間および最終発表において発表と討論を行えと共に, 報告書を期限内に提出できる.	中間および最終発表において発表と討論を積極的に行えず, 十分なレベルと分量の報告書を期限内に提出できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	「魅力的な製品」の実現を目指して学生自ら技術的課題と目標を設定し, 期日や材料の制限下で実現可能性を考慮に入れた仕様・計画の立案, 設計・製作を完遂する. 一連の過程を通して, 解決すべき課題の発見と解決手法を実践的に体験する. 技術者としてのモチベーション(意欲, 情熱, チャレンジ精神など)を涵養し, これまでに学んだ学問・技術の応用能力, 課題設定力, 創造力, 継続的・自律的に学習できる能力, プレゼンテーション能力および報告書作成能力を育成する. 実習を通して創造力の幅を広げ, より高度な設計技術, エンジニアリングデザイン能力を実地で身に付ける. この科目は顧客のニーズに応じた実践的な製品開発の一連のプロセスを実習形式で体験する授業である. 企業で産業用ロボット, シーケンサー(PLC)などを用いた自動生産設備の開発を担当していた教員を中心として機械工学科全教員で担当する.				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第1週の内容は, 学習・教育到達目標(A)〈視野〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉に対応する. ・第2週, 第3週の内容は, アイデア討論, 仕様策定および概略設計, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する. ・第4週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する. ・第5週から第14週までの内容はすべて, 学習・教育到達目標(A)〈意欲〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する. ・第15週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する. ・授業は講義・実習形式で行う. 講義中は集中して聴講し, 実習中は安全に注意して真剣に取り組む. ・クラスを班(各班2~5名)に分け, 指定された大枠のテーマを満たす「魅力的な製品」を各班で1台ずつ製作する. ・考案, 仕様策定, 計画立案, 設計・製作, プレゼンテーションを班員全員で協力して行う. ・製作する製品はセンサやスイッチなどを入力とし, 電気モータやエアシリンダを動力とする. 動力およびアルミ材など, 最低限必要な材料は支給する. ・エンジニアリングデザインに関する実践的な知識や経験に関する講義を行なう. 学内パテントコンテストへの参加も強く推奨する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準></p> <p>「到達目標」1~6の習得の度合いを中間および最終発表会のプレゼンテーションと完成した成果物と最終報告書で評価する. 100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように, それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定し, 中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として評価する.</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準></p> <p>中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として100点満点で評価する.</p> <p><単位修得要件></p> <p>学業成績の評価方法によって, 学業成績で60点以上を取得すること.</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲></p> <p>本教科は「機械工作実習」, 「総合実習」の学習が基礎となる教科である. 以上の科目に加え, 設計製図, 機械加工学, コンピュータプログラミング等の基礎知識も必要である.</p> <p><レポート等></p> <p>学期末に, 製作した成果物のアイデア, 機構, 図面をまとめたレポートを各人1部提出する.</p> <p><備考></p> <p>本教科は後に学習する「卒業研究」, 「特別研究(専攻科)」の基礎となる教科である. 第3学年の「総合実習」で行ったロボット製作よりも高度な技術が要求される一方, 製作に当てられる時間数が少ないため計画にしたがって効率的に作業を行う必要があり, チームワークが重要である.</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業内容および自動制御に関するガイダンス	1. 顧客の要望するニーズの本質を理解するために問題を掘り下げて考察することができる.	
		2週	アイデア討論	2. ニーズに応えられる現実的なソリューションを積極的に多角的な視点に基づいて議論できる.	
		3週	仕様策定および概略設計	3. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習できる.	

創造工学シラバス(電子情報工学科)

2ndQ	4週	アイデア発表会	4. 理解しやすく工夫した発表と的確な討論を行なえる.
	5週	詳細設計(1)	上記1から3 5. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し, その解決に向けて自律的に学習できる. 6. テーマを進める過程で自ら創意・工夫できる.
	6週	詳細設計(2)	上記1から6
	7週	詳細設計(3)	上記1から6
	8週	課題製作(1)	上記1から6 7. ゴールを意識し, 計画的に課題を進められる.
	9週	課題製作(2)	上記1から7
	10週	課題製作(3)	上記1から7
	11週	課題製作(4)	上記1から7
	12週	課題製作(5)	上記1から7
	13週	課題製作(6)	上記1から7
	14週	課題製作(7)	上記1から7
	15週	成果発表会	8. 報告書を論理的に記述し, 期限内に提出できる.
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2			
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3			
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3			
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3			
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3				
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3				
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3				
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	

創造工学シラバス(電子情報工学科)

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	

評価割合

	発表（中間）	発表（最終）	報告書	課題作品	合計
総合評価割合	15	5	75	5	100
配点	15	5	75	5	100

創造工学シラバス(生物応用化学科)

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	創造工学
科目基礎情報					
科目番号	0073		科目区分	専門/必修	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	生物応用化学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	学科から提案された課題については適宜、参考書・プリント等を配布する。				
担当教員	生物応用化学科 全教員				
到達目標					
習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し、習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進め、成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論することができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		習得した知識・能力を超える問題について、創造性を発揮することができる。	習得した知識をもとに、創造性を発揮することができる。	創造性を発揮することができない。	
評価項目2		習得した知識・能力を超える問題について、限られた時間内で仕事を計画的に進めることができる。	習得した知識をもとに、限られた時間内で仕事を計画的に進めることができる。	限られた時間内で仕事を計画的に進めることができない。	
評価項目3		習得した知識・能力を超える問題について、成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論することができる。	習得した知識をもとに、成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論することができる。	成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	創造性・独創性を培う具体的工学教育の基礎をもの造りと位置づけ、自ら設定した課題あるいは提案された課題について取り組み、その実現のために解決すべき課題の発見とその解決法のデザインを体験する。この過程を通して、技術者としてのモチベーション(意欲、情熱、チャレンジ精神など)を高めるとともに、これまで学んできた学問・技術の応用能力、課題設定力、創造力、継続的・自律的に学習できる能力、プレゼンテーション能力および報告書作成能力を培う。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は、学習・教育到達目標(B)〈専門〉に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」の習得の度合いを、テーマ発表(10%)、中間発表(10%)、最終発表(25%)、課題報告書(50%)、課題作品(5%)により評価し、100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように、それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>テーマ発表を10%、中間発表を10%、最終発表を25%、課題報告書を50%、課題作品を5%として評価し、100点満点で評価する。</p> <p><単位修得条件>学業成績で60点以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲>課題に関連する工作技術や基礎的な電気・電子回路等の周辺技術、知識があることが望ましい。しかし、それが無くても意欲的に関連知識の吸収に心がけること。本教科は、倫理・社会の学習が基礎となる教科である。</p> <p><レポート等>授業内容の項で示した1.実施概要計画書、2.概要・実施計画の発表会(テーマ発表会)、3.課題報告書、4.最終発表、5.課題の制作などを実施する。</p> <p><備考>本授業では各班・各自の考えで独特のものを作り出すことにある。自ら積極的・意欲的に取り組む姿勢が要求される。なお、工作等では怪我のないよう十分注意する。本授業では学外のエンジニアを講師として招き、エンジニアリングデザインに関する実践的な知識や経験に基づいたテーマに対する助言を受けることができる。本教科は、後に学習する卒業研究の基礎となる教科である。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス(授業の目的、意義の主旨および授業方針、発表会とレポート提出の説明)、班分け、テーマの決定、課題に関する情報収集 <展開>	1. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し、継続的に学習することができる。	
		2週	課題作成 <展開> <意欲> <展開> <発表>	2. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し、その解決に向けて自律的に学習することができる。 3. テーマのゴールを意識し、計画的に課題を進めることができる。 4. テーマを進める過程で自ら創意・工夫することができる。	
		3週	課題作成 <展開> <意欲>	上記2, 3, 4	
		4週	課題作成 <展開> <意欲>	上記2, 3, 4	
		5週	課題作成 <展開> <意欲>	上記2, 3, 4	
		6週	課題作成 <展開> <意欲>	上記2, 3, 4	
		7週	課題作成 <展開> <意欲>	上記2, 3, 4	
		8週	中間発表会 <専門> <展開> <発表> <意欲>	5. 中間発表会と最終発表において、理解しやすく工夫した発表をすることができ、的確な討論をすることができる。	
	2ndQ	9週	改良点等の検討 <意欲> <展開>	上記2, 3, 4	

創造工学シラバス(生物応用化学科)

	10週	課題作成(改良・検討) 〈意欲〉〈展開〉	上記2, 3, 4
	11週	課題作成(改良・検討) 〈意欲〉〈展開〉	上記2, 3, 4
	12週	課題作成・製作品についての電気的特性の測定, 計算精度の評価等の実験と性能検査 〈意欲〉, 〈展開〉	上記2, 3, 4
	13週	課題作成・製作品についての電気的特性の測定, 計算精度の評価等の実験と性能検査 〈意欲〉, 〈展開〉	上記2, 3, 4
	14週	課題完成・レポート作成 〈展開〉〈発表〉〈意欲〉	6. 報告書を論理的に記述することができる。
	15週	課題報告書提出・最終発表会 〈専門〉〈展開〉〈発表〉〈意欲〉	上記5, 6
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	3		
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	3		
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	3		
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	3		
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	3		
			実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	3		
			実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3		
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3		
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3		
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	3		
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3		
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3		
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3		
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3		
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3		
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3		
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3		
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3		
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3		
	複数の情報を整理・構造化できる。	3				
	特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3				
	課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3				
	グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3				
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3				
	適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3				
	事実をもとに論理や考察を展開できる。	3				
	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3				
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
目標の実現に向けて計画ができる。				3		
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。				3		
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。				3		

創造工学シラバス(生物応用化学科)

			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	

評価割合

	テーマ発表	中間発表	最終発表	課題報告書	課題作品	合計
総合評価割合	10	10	25	50	5	100
配点	10	10	25	50	5	100

創造工学シラバス(材料工学科)

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	創造工学
科目基礎情報				
科目番号	0101	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	材料工学科	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	4	
教科書/教材	教科書: プリント配布. 参考書: 1, 2 学年「機械工作法」の教科書, 「はじめてのロボット創造設計」(米田, 講談社) など.			
担当教員	[REDACTED], 材料工学科 全教員			
到達目標				
習得した知識・能力を超える問題に備えて継続的・自律的に学習し, 習得した知識をもとに創造性を発揮し, 限られた時間内で仕事を計画的に進め, チーム内で成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる.				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握し, 解決に向けて自律的に学習できる.	テーマを進める上で準備する事柄を認識し, 解決すべき課題を把握して解決に向けて努力できる.	テーマを進める上で準備する事柄を認識したり, 解決すべき課題を把握することができない.	
評価項目2	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進める共に, 自ら創意工夫できる.	ゴールを意識して, 班員と共に計画的に課題を進めることができる.	ゴールを意識して, 計画的に課題を進めることができない.	
評価項目3	中間および最終発表において理解し易く工夫した発表と討論を行えと共に, 論理的に記述した報告書を期限内に提出できる.	中間および最終発表において発表と討論を行えと共に, 報告書を期限内に提出できる.	中間および最終発表において発表と討論を積極的に行えず, 十分なレベルと分量の報告書を期限内に提出できない.	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	「魅力的な製品」の実現を目指して学生自ら技術的課題と目標を設定し, 期日や材料の制限下で実現可能性を考慮に入れた仕様・計画の立案, 設計・製作を完遂する. 一連の過程を通して, 解決すべき課題の発見と解決手法を実践的に体験する. 技術者としてのモチベーション(意欲, 情熱, チャレンジ精神など)を涵養し, これまでに学んだ学問・技術の応用能力, 課題設定力, 創造力, 継続的・自律的に学習できる能力, プレゼンテーション能力および報告書作成能力を育成する. 実習を通して創造力の幅を広げ, より高度な設計技術, エンジニアリングデザイン能力を実地で身に付ける. この科目は顧客のニーズに応じた実践的な製品開発の一連のプロセスを実習形式で体験する授業である. 企業で産業用ロボット, シーケンサー(PLC)などを用いた自動生産設備の開発を担当していた教員を中心として機械工学科全教員で担当する.			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第1週の内容は, 学習・教育到達目標(A)〈視野〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉に対応する. ・第2週, 第3週の内容は, アイデア討論, 仕様策定および概略設計, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する. ・第4週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する. ・第5週から第14週までの内容はすべて, 学習・教育到達目標(A)〈意欲〉, 学習・教育到達目標(B)〈専門〉, 〈展開〉に対応する. ・第15週の内容は, 学習・教育到達目標(C)〈発表〉に対応する. ・授業は講義・実習形式で行う. 講義中は集中して聴講し, 実習中は安全に注意して真剣に取り組む. ・クラスを班(各班2~5名)に分け, 指定された大枠のテーマを満たす「魅力的な製品」を各班で1台ずつ製作する. ・考案, 仕様策定, 計画立案, 設計・製作, プレゼンテーションを班員全員で協力して行う. ・製作する製品はセンサやスイッチなどを入力とし, 電気モータやエアシリンダを動力とする. 動力およびアルミ材など, 最低限必要な材料は支給する. ・エンジニアリングデザインに関する実践的な知識や経験に関する講義を行なう. 学内パテントコンテストへの参加も強く推奨する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 			
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 「到達目標」1~6の習得の度合いを中間および最終発表会のプレゼンテーションと完成した成果物と最終報告書で評価する. 100点満点で60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように, それぞれの報告書および発表の評価レベルを設定し, 中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として評価する.</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準> 中間発表を15%, 最終報告書を75%, 最終発表を5%, 課題作品を5%として100点満点で評価する.</p> <p><単位修得要件> 学業成績の評価方法によって, 学業成績で60点以上を取得すること. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 本教科は「機械工作実習」, 「総合実習」の学習が基礎となる教科である. 以上の科目に加え, 設計製図, 機械加工学, コンピュータプログラミング等の基礎知識も必要である.</p> <p><レポート等> 学期末に, 製作した成果物のアイデア, 機構, 図面をまとめたレポートを各人1部提出する.</p> <p><備考> 本教科は後に学習する「卒業研究」, 「特別研究(専攻科)」の基礎となる教科である. 第3学年の「総合実習」で行ったロボット製作よりも高度な技術が要求される一方, 製作に当てられる時間数が少ないため計画にしたがって効率的に作業を行う必要があり, チームワークが重要である.</p>			
授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応
				<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業内容および自動制御に関するガイダンス	1. 顧客の要望するニーズの本質を理解するために問題を掘り下げて考察することができる.
		2週	アイデア討論	2. ニーズに応えられる現実的なソリューションを積極的に多角的な視点に基づいて議論できる.
		3週	仕様策定および概略設計	3. テーマを進める上で準備すべき事柄を認識し, 継続的に学習できる.

創造工学シラバス(材料工学科)

2ndQ	4週	アイデア発表会	4. 理解しやすく工夫した発表と的確な討論を行なえる.
	5週	詳細設計(1)	上記1から3 5. テーマを進める上で解決すべき課題を把握し, その解決に向けて自律的に学習できる. 6. テーマを進める過程で自ら創意・工夫できる.
	6週	詳細設計(2)	上記1から6
	7週	詳細設計(3)	上記1から6
	8週	課題製作(1)	上記1から6 7. ゴールを意識し, 計画的に課題を進められる.
	9週	課題製作(2)	上記1から7
	10週	課題製作(3)	上記1から7
	11週	課題製作(4)	上記1から7
	12週	課題製作(5)	上記1から7
	13週	課題製作(6)	上記1から7
	14週	課題製作(7)	上記1から7
	15週	成果発表会	8. 報告書を論理的に記述し, 期限内に提出できる.
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	3	
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	3	
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	3	
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
			他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
			他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
			グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
			書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
			収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
			収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
			情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
			目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
			あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
			複数の情報を整理・構造化できる。	3	
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
			グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
	どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3			
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3				
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3				
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3				
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
			自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3	
			目標の実現に向けて計画ができる。	3	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	

創造工学シラバス(材料工学科)

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	

評価割合

	発表（中間）	発表（最終）	報告書	課題作品	合計
総合評価割合	15	5	75	5	100
配点	15	5	75	5	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	0093		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き					
担当教員	機械工学科 全教員					
到達目標						
社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	担当者の指導の下, 自ら進んで実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できない.			
評価項目2	実習内容を的確にまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できない.			
評価項目3	実習内容を的確に整理して発表できる.	実習内容を整理して発表できる.	実習内容を発表できない.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得する.					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は, 内容は, 学習・教育到達目標(B) <展開> に対応する. 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う. 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関. ただし, 専攻科2年次の就職内定者については, 内定先企業等への実習とする. 【内容】第4学年および第5学年学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】1週間から3週間(実働5日以上) 【日報】毎日, 日報を作成すること. 【課題】インターンシップ終了後に, 報告書を作成し提出すること. 【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表準備を行うこと. 					
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する. ・評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである. <学業成績の評価方法および評価基準> 「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って, 勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する. <単位修得要件> 総合評価で「可」以上を取得すること. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など) <レポートなど> 日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に, 担任に提出すること. 発表会用に発表資料および発表の準備をすること. <備考> インターンシップの内容は, 第4学年および第5学年の学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務であること. 第5学年の就職内定者については, 内定先企業等への実習であること. 実習機関の規則を厳守すること. 評定書を最終日に受け取ったら, 担任に提出すること. インターンシップの手引き, 筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること.</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		1. 技術者として必要な資質が分かり, それらを体得できる.		
		2週		2. 実践的技術感覚が分かり, それらを体得できる.		
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる.		
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる.		
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる.		
		6週		6. 体得したことを発表し, 質疑応答することができる.		
	2ndQ	7週				
		8週				
		9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				

		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3		

評価割合

	取り組み状況及び報告内容	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	0077		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き					
担当教員	各学年 担任					
到達目標						
社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	担当者の指導の下, 自ら進んで実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できない.			
評価項目2	実習内容を的確にまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できない.			
評価項目3	実習内容を的確に整理して発表できる.	実習内容を整理して発表できる.	実習内容を発表できない.			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得する.					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は, 内容は, 学習・教育到達目標(B) <展開> に対応する. 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う. 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関. ただし, 専攻科2年次の就職内定者については, 内定先企業等への実習とする. 【内容】第4学年および第5学年学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】1週間から3週間(実働5日以上) 【日報】毎日, 日報を作成すること. 【課題】インターンシップ終了後に, 報告書を作成し提出すること. 【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表準備を行うこと. 					
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する. ・評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである. <学業成績の評価方法および評価基準> 「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って, 勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する. <単位修得要件> 総合評価で「可」以上を取得すること. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など) <レポートなど> 日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に, 担任に提出すること. 発表会用に発表資料および発表の準備をすること. <備考> インターンシップの内容は, 第4学年および第5学年の学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務であること. 第5学年の就職内定者については, 内定先企業等への実習であること. 実習機関の規則を厳守すること. 評定書を最終日に受け取ったら, 担任に提出すること. インターンシップの手引き, 筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること.</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		1. 技術者として必要な資質が分かり, それらを体得できる.		
		2週		2. 実践的技術感覚が分かり, それらを体得できる.		
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる.		
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる.		
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる.		
		6週		6. 体得したことを発表し, 質疑応答することができる.		
	2ndQ	7週				
		8週				
		9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				

		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3		

評価割合

	取り組み状況及び報告内容	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0089		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き				
担当教員	各学年 担任				
到達目標					
社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し、それらを日報や報告書にまとめ、それらをもとに、発表資料を作成し、それを伝えられる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	担当者の指導の下、自ら進んで実習を遂行できる。	担当者の指導の下、実習を遂行できる。	担当者の指導の下、実習を遂行できない。		
評価項目2	実習内容を的確にまとめた報告書を作成できる。	実習内容をまとめた報告書を作成できる。	実習内容をまとめた報告書を作成できない。		
評価項目3	実習内容を的確に整理して発表できる。	実習内容を整理して発表できる。	実習内容を発表できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は、内容は、学習・教育到達目標(B)〈展開〉に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 次のインターンシップ機関(以下、実習機関)、内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し、日報、報告書、発表資料を作成し、発表を行う。 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関。ただし、専攻科2年次の就職内定者については、内定先企業等への実習とする。 【内容】第4学年および第5学年学生が従事できる実務のうち、インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】1週間から3週間(実働5日以上) 【日報】毎日、日報を作成すること。 【課題】インターンシップ終了後に、報告書を作成し提出すること。 【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので、発表資料を作成し、発表準備を行うこと。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況、勤務態度、日報、報告書および発表の項目を総合して評価する。 ・評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。 <学業成績の評価方法および評価基準> 「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って、勤務状況、勤務態度、日報、報告書および発表により成績を評価する。 <単位修得要件> 総合評価で「可」以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 心得(時間の厳守(10分前集合)、挨拶、お礼など) <レポートなど> 日報は、毎日、作成し、報告書も作成し、実習指導責任者の検印を受けて、インターンシップ終了後に、担任に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。 <備考> インターンシップの内容は、第4学年および第5学年の学生が従事できる実務のうち、インターンシップの目的にふさわしい業務であること。第5学年の就職内定者については、内定先企業等への実習であること。実習機関の規則を厳守すること。評定書を最終日に受け取ったら、担任に提出すること。インターンシップの手引き、筆記用具、メモ帳(手帳)、日報、実習先から指定されている物、評定書を持参すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週		1. 技術者として必要な資質が分かり、それらを体得できる。	
		2週		2. 実践的技術感覚が分かり、それらを体得できる。	
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる。	
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる。	
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる。	
	2ndQ	6週		6. 体得したことを発表し、質疑応答することができる。	
		7週			
		8週			
		9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
15週					

		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3		

評価割合

	取り組み状況及び報告内容	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0078		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生物応用化学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き				
担当教員	各学年 担任				
到達目標					
社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し、それらを日報や報告書にまとめ、それらをもとに、発表資料を作成し、それを伝えられる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	担当者の指導の下、自ら進んで実習を遂行できる。	担当者の指導の下、実習を遂行できる。	担当者の指導の下、実習を遂行できない。		
評価項目2	実習内容を的確にまとめた報告書を作成できる。	実習内容をまとめた報告書を作成できる。	実習内容をまとめた報告書を作成できない。		
評価項目3	実習内容を的確に整理して発表できる。	実習内容を整理して発表できる。	実習内容を発表できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は、内容は、学習・教育到達目標(B)〈展開〉に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 次のインターンシップ機関(以下、実習機関)、内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し、日報、報告書、発表資料を作成し、発表を行う。 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関。ただし、専攻科2年次の就職内定者については、内定先企業等への実習とする。 【内容】第4学年および第5学年学生が従事できる実務のうち、インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】1週間から3週間(実働5日以上) 【日報】毎日、日報を作成すること。 【課題】インターンシップ終了後に、報告書を作成し提出すること。 【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので、発表資料を作成し、発表準備を行うこと。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況、勤務態度、日報、報告書および発表の項目を総合して評価する。 ・評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。 <学業成績の評価方法および評価基準> 「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って、勤務状況、勤務態度、日報、報告書および発表により成績を評価する。 <単位修得要件> 総合評価で「可」以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 心得(時間の厳守(10分前集合)、挨拶、お礼など) <レポートなど> 日報は、毎日、作成し、報告書も作成し、実習指導責任者の検印を受けて、インターンシップ終了後に、担任に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。 <備考> インターンシップの内容は、第4学年および第5学年の学生が従事できる実務のうち、インターンシップの目的にふさわしい業務であること。第5学年の就職内定者については、内定先企業等への実習であること。実習機関の規則を厳守すること。評定書を最終日に受け取ったら、担任に提出すること。インターンシップの手引き、筆記用具、メモ帳(手帳)、日報、実習先から指定されている物、評定書を持参すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週		1. 技術者として必要な資質が分かり、それらを体得できる。	
		2週		2. 実践的技術感覚が分かり、それらを体得できる。	
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる。	
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる。	
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる。	
		6週		6. 体得したことを発表し、質疑応答することができる。	
		7週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			

		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3				

評価割合

	取り組み状況及び報告内容	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	インターンシップ
科目基礎情報					
科目番号	0104		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	材料工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	教科書: 特になし, 参考書: インターンシップの手引き				
担当教員	各学年 担任				
到達目標					
社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し, それらを日報や報告書にまとめ, それらをもとに, 発表資料を作成し, それを伝えられる.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	担当者の指導の下, 自ら進んで実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できる.	担当者の指導の下, 実習を遂行できない.		
評価項目2	実習内容を的確にまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できる.	実習内容をまとめた報告書を作成できない.		
評価項目3	実習内容を的確に整理して発表できる.	実習内容を整理して発表できる.	実習内容を発表できない.		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	社会との密接な接触を通じて, 技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得する.				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての授業内容は, 内容は, 学習・教育到達目標(B) <展開> に対応する. 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. 次のインターンシップ機関(以下, 実習機関), 内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し, 日報, 報告書, 発表資料を作成し, 発表を行う. 【実習機関】学生の指導が担当可能な企業または公共団体の機関で専攻科分科会の推薦により校長が選定して委属した機関. ただし, 専攻科2年次の就職内定者については, 内定先企業等への実習とする. 【内容】第4学年および第5学年学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】1週間から3週間(実働5日以上) 【日報】毎日, 日報を作成すること. 【課題】インターンシップ終了後に, 報告書を作成し提出すること. 【発表】夏季休暇後にインターンシップ発表会を開催するので, 発表資料を作成し, 発表準備を行うこと. 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準> 授業計画の「到達目標」1~6の習得具合を勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表の項目を総合して評価する. ・評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである. <学業成績の評価方法および評価基準> 「インターンシップの成績評価基準」に定められた配点に従って, 勤務状況, 勤務態度, 日報, 報告書および発表により成績を評価する. <単位修得要件> 総合評価で「可」以上を取得すること. <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 心得(時間の厳守(10分前集合), 挨拶, お礼など) <レポートなど> 日報は, 毎日, 作成し, 報告書も作成し, 実習指導責任者の検印を受けて, インターンシップ終了後に, 担任に提出すること. 発表会用に発表資料および発表の準備をすること. <備考> インターンシップの内容は, 第4学年および第5学年の学生が従事できる実務のうち, インターンシップの目的にふさわしい業務であること. 第5学年の就職内定者については, 内定先企業等への実習であること. 実習機関の規則を厳守すること. 評定書を最終日に受け取ったら, 担任に提出すること. インターンシップの手引き, 筆記用具, メモ帳(手帳), 日報, 実習先から指定されている物, 評定書を持参すること.</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週		1. 技術者として必要な資質が分かり, それらを体得できる.	
		2週		2. 実践的技術感覚が分かり, それらを体得できる.	
		3週		3. 体得したことを日報にまとめることができる.	
		4週		4. 体得したことを報告書にまとめることができる.	
		5週		5. 体得したことを発表資料にすることができる.	
		6週		6. 体得したことを発表し, 質疑応答することができる.	
		7週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			

		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
		高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3		

評価割合

	取り組み状況及び報告内容	合計
総合評価割合	100	100
配点	100	100

令和6年度インターンシップ実施状況

令和6年12月2日 現在

1. 学年・参加人数

第4学年	189人(昨年度	185人)	単位認定対象の実習のみ/延べ人数
第5学年	1人(昨年度	0人)	
専攻科1年次	22人(昨年度	28人)	単位認定対象の実習のみ/延べ人数
専攻科2年次	0人(昨年度	0人)	
2. 期 間 夏季休業期間
3. 依頼機関数 — (昨年度 515件) ※今年度より、依頼状の送付を取りやめ。
なお、昨年度の依頼機関498件に変更通知を送付。
4. 受入可能機関数 356件(昨年度 303件) ※大学を含む
5. 実施機関数 118件(昨年度 119件) ※大学を含む
6. 実施状況(第4学年・専攻科1年次)

学科・専攻	学生数(A)	延べ参加者数(B)	参加率(B/A)
機械工学科	32人 (49)	32人 (37)	100% (76%)
電気電子工学科	39人 (39)	42人 (40)	108% (103%)
電子情報工学科	39人 (35)	33人 (22)	85% (63%)
生物応用化学科	44人 (40)	43人 (39)	98% (98%)
材料工学科	38人 (41)	39人 (45)	103% (110%)
専攻科	30人 (29)	22人 (28)	73% (97%)
合 計	222人 (233)	211人 (211)	95% (91%)

※1 ()内の数字は昨年度の実績を示す。

※2 学生数に休学者数、単位取得済み留年生、5年生、専攻科2年次の人数は含まない。

※3 実参加者数 192人 (2社以上参加した学生あり)

※4 国際(海外)インターンシップは今年度はなし。

7. 実習形態 (第4学年・専攻科1年次)

	対面実習	オンライン実習	対面+オンライン	合計
機械工学科	32人	0人	0人	32人
電気電子工学科	41人	1人	0人	42人
電子情報工学科	25人	1人	7人	33人
生物応用化学科	43人	0人	0人	43人
材料工学科	39人	0人	0人	39人
専攻科	22人	0人	0人	22人
合 計	202人	2人	7人	211人

8. 実働日数別実施状況（第4学年・専攻科1年次）

学科・専攻	実働5日	実働6～10日	実働10日を超える
機械工学科	26人	6人	0人
電気電子工学科	33人	5人	1人
電子情報工学科	20人	7人	0人
生物応用化学科	36人	2人	1人
材料工学科	30人	4人	1人
専攻科	11人	6人	1人
合計	156人	30人	4人

※1 2社参加した学生は期間を合計して該当期間に算入。

※2 台風10号の接近に伴う影響で実働日数が5日未満になったものも、実働5日に算入。

9. インターンシップ参加率推移（第4学年・専攻科1年次）

	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度
機械工学科	100% (32/32)	76% (37/49)	76% (29/38)	61% (23/38)
電気電子工学科	108% (42/39)	103% (40/39)	54% (22/41)	46% (19/41)
電子情報工学科	85% (33/39)	63% (22/35)	57% (21/37)	62% (23/37)
生物応用工学科	98% (43/44)	98% (39/40)	81% (34/42)	55% (23/42)
材料工学科	103% (39/38)	110% (45/41)	89% (34/38)	58% (22/38)
専攻科	73% (22/30)	97% (28/29)	20% (6/30)	20% (6/30)
合計	95% (211/222)	91% (211/233)	65% (146/226)	51% (116/226)

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	長期海外インターンシップA
科目基礎情報				
科目番号	0175	科目区分	般 / 選択	
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設 学科	機械工 学科	対象 学年	5	
開設期	後期	週時間数	8	
教科書/教材	教科書：特になし、参考書：インターンシップ の手引			
担当 教員	長期海外インターンシップ 担当 教員			
到達目標				
長期インターンシップは本校と協定を締結した 海外の大学又は企業において、グローバルな視野を養い、創造性豊かな実践的技術者として、将来、活躍するための必要な資質を涵養するために実施することを目的とする。また、大学又は企業において体験したことを日報や報告書にまとめ、それらをもとに、発表資料を作成・報告する。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未 到達レベルの目安	
評価項目1				
評価項目2				
評価項目3				
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	海外の大学又は企業でグローバルな視野を涵養する。			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 内容は、学習・教育到達目標(A)<視野>、(B)<専門><展開>、(C)<英語>に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 次のインターンシップ機関(以下、実習機関)、内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し、報告書、発表資料を作成し、発表を行う。 【実習機関】本校と協定を締結した海外の大学または企業 【内容】長期海外インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】夏季休業開始の日から学則第11条に規定する後期が終了する日までの間で指定された期間 【報告書】決められた期間の報告書を定期的に作成し、提出すること。 【課題】インターンシップ終了後に、成果報告書を作成し提出すること。 【発表】成果報告会を開催するので、発表資料を作成し、発表を行うこと。 			
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」1～6の習得具合を勤務状況、勤務 態度、日報、報告書および発表の項目を総合して評価する。計画に対する「知識・能力」の各項目の星の数により評価する。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>長期海外インターンシップの実施状況、成果報告書および成果発表会により成績を評価する。</p> <p><単位修得要件> 総評価で「可 以上」を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識(備前)>外国語での日常会話程度の語学力、心得(時間の厳守、挨拶、お礼など)</p> <p><レポートなど>日報は、毎日、作成し、報告書も作成し、実習指導責任者の検印を受けて、インターンシップ終了後に、担当教員に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p><備考>実習機関の規則を厳守すること。</p>			
授業の属性・履修上の区分				
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務 経験 あり 教員による授業	
授業計画				
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	実施計画書による	
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
	4thQ	8週		
		9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル/授業週
評価割合				
		発表 (長期海外インターンシップ と併せて評価する)	合計	
総合評価割合		100	100	
配点		100	100	

鈴鹿工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	長期海外インターンシップB	
科目基礎情報					
科目番号	0176	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 7		
開設学科	機械工学科	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	14		
教科書/教材	教科書：特になし，参考書：インターンシップの手引				
担当教員	長期海外インターンシップ担当教員				
到達目標					
長期インターンシップは本校と協定を締結した海外の大学又は企業において、グローバルな視野を養い、創造性豊かな実践的技術者として、将来、活躍するための必要な資質を涵養するために実施することを目的とする。また、大学又は企業において体験したことを日報や報告書にまとめ、それらをもとに、発表資料を作成・報告する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の大学又は企業でグローバルな視野を涵養する。 鈴鹿工業高等専門学校長期海外インターンシップ実施要項に基づき、成果報告により、長期海外インターンシップA、Bを評価する。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 内容は、学習・教育到達目標(A)<視野>、(B)<専門><展開>、(C)<英語>に対応する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 次のインターンシップ機関(以下、実習機関)、内容および期間で実務上の問題点と課題を体験し、報告書、発表資料を作成し、発表を行う。 【実習機関】本校と協定を締結した海外の大学または企業 【内容】長期海外インターンシップの目的にふさわしい業務 【期間】夏季休業開始の日から学則第11条に規定する後期が終了する日までの間で指定された期間 【報告書】決められた期間の報告書を定期的に作成し、提出すること。 【課題】インターンシップ終了後に、成果報告書を作成し提出すること。 【発表】成果報告会を開催するので、発表資料を作成し、発表を行うこと。 				
注意点	<p><到達目標の評価方法と基準>下記授業計画の「到達目標」1～6の習得具合を勤務状況、勤務態度、日報、報告書および発表の項目を総合して評価する。評価に対する「知識・能力」の各項目の重みは同じである。</p> <p><学業成績の評価方法および評価基準>長期海外インターンシップの実施状況、成果報告書および成果発表会により成績を評価する。</p> <p><単位修得要件>総合評価で「可」以上を取得すること。</p> <p><あらかじめ要求される基礎知識の範囲>外国語での日常会話程度の語学力、心得(時間の厳守、挨拶、お礼など)</p> <p><レポートなど>日報は、毎日、作成し、報告書も作成し、実習指導責任者の検印を受けて、インターンシップ終了後に、担当教員に提出すること。発表会用に発表資料および発表の準備をすること。</p> <p><備考>実習機関の規則を厳守すること。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input type="checkbox"/> ICT 利用	<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	実施計画書による		
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	4thQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合			発表(長期海外インターンシップAと併せて評価する)	合計	
総合評価割合			100	100	
配点			100	100	



ホーム > フォト広報 > トゥルク応用科学大学交換留学生成果報告会を開催

トゥルク応用科学大学交換留学生成果報告会を開催

2024年08月21日

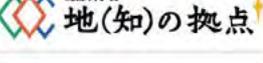
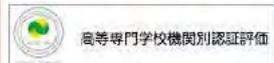
8月9日(金)、フィンランド・トゥルク応用科学大学からの交換留学生Jere Eskelinenさん、Valteri Äyräsさんの成果報告会を開催されました。

2021年11月に本校と同大学間で締結した交換留学プログラム協定に基づいた、2回目の留学生の受け入れでした。両名の学生はこの4月から8月までの前期期間中、日本人学生と共に英語による授業、実験実習、インターンシップなどに参加し、非常に充実した留学生生活となっただけでなく、本校学生にとっても国際化へのモチベーションを高める良い機会となりました。

成果報告会では活発な質疑応答もなされ、8月12日(月)に帰国の途に就きました。



トゥルク応用科学大学 - Turku University of Applied Sciences - <https://www.tuas.fi/en/>



↑ ページの先頭へ



ホーム > フォト広報 > 帰国報告会を開催

帰国報告会を開催

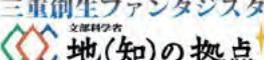
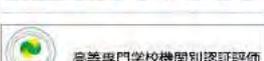
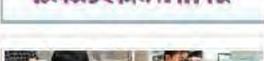
2024年05月30日

5月23日(木)、帰国報告会が開催されました。フィンランド・トゥルク応用科学大学との交換留学生プログラム協定に基づく1年間の留学を終えた第5学年電子情報工学科の今立胡斗さん、2023年度「トビタテ留学JAPAN！」に採択され、留学を終えた第4学年材料工学科の田邊智恵さんと第3学年電子情報工学科の田中魁さんから、それぞれ報告が行われました。

3名の学生から留学のきっかけや現地での学修・生活、気づき等について発表があり、その後、日下国際交流室長より海外派遣プログラム、留学プログラムについての詳細な説明や心構えについてのお話がありました。対面・オンラインともに多数の学生が参加し、発表後は報告者への質問が出るなど、留学への関心の高さが伺えました。



- ・トゥルク応用科学大学 - Turku University of Applied Sciences - <<https://www.tuas.fi/en/>>
- ・【文部科学省】トビタテ！留学JAPAN <<https://tobitate.mext.go.jp/>>



↑ ページの先頭へ



【レポート記事】高専ビジネスコンテスト 2024 in 鈴鹿高専

 株式会社プロッセル
2024年3月28日 09:51

こんにちは！プロッセルです。

2024年1月15日(月)～1月20日(土)まで『高専ビジネスコンテスト2024 in 鈴鹿高専』を開催しました！
ビジネスコンテストに少しでも興味のある高専生に向けて、今回のビジコンをレポートします！

<こんな学生におすすめの記事>

- ・ビジコンに参加しようか迷っている高専生
- ・ビジコンに参加するイメージが湧いていない高専生
- ・少しでもビジネスに触れてみたいと思っている高専生

高専ビジネスコンテスト2024 in 鈴鹿高専とは？

高専生が「社会で困っていることの解決策の実現」をテーマに6日間のチーム対抗ビジネスコンテストを開催しました。今回のビジコンは、BIT VALLEY(株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社MIXI)が協賛となり、各企業に審査員として参加いただきました。

大賞にはAmazonギフトカード（5万円分）が、協賛企業賞には3社のオフィス訪問（渋谷までの交通費支給）、Prossell賞には技術系学習本（1人1冊）といった豪華賞品が贈呈されます！

開催期間：1月15日（月）～1月20日（土）

場所：鈴鹿高専内の起業家工房又はオンラインでの参加も可能です

参加費：無料

対象：専攻科も含む高等専門学校に所属するすべての学生

テーマ：社会で困っていることの解決策の実現

*ものづくりはマストではなく、プランだけの発表も可能です

*プログラミングの経験は必要ありませんが、希望する学生にはプロセッサが全力でサポートします

*グループ結成を志す参加は必須ではありません。個人で参加される学生でも、テーマが似ている場合はグループ化するようなことも過去にありました

キックオフ～最終成果発表会

1月15日：キックオフイベント

今回は3高専から22チーム、約70名の方に参加いただきました！

キックオフイベントでは、対面/オンラインにて今回のビジコンに参加する学生が集結しました。

まずは仲間のことを知ろう！ということで自己紹介の時間を設けました！じゃんけんをして負けた人がインタビュアーになって、勝った人の深掘りをしようという、少し変わった自己紹介の時間。学校や学年を問わず、お菓子を食べながら交流を深めました！



1月16日～18日：ビジネス講義やハンズオン

キックオフの次の日からは、いよいよビジネスプランを練っていきます。ビジネスプランって何？という学生が参加しても大丈夫！初学者向けの講義（ビジネス・AI・Web）があるので安心して参加してください。ビジコンを通して知識を身につけていきましょう。

困ったらプロセッサが丁寧にビジネスプランの作り方や市場分析の方法、課題の洗い出し等をサポートします！チーム内でビジネスモデルについてディスカッションする時間もあるので、1人で悩む必要もありません！

20日：最終成果発表会

いよいよ最終日！成果発表会の日です！

22チームの発表全て書ききれないので、選ばれた5チームの発表を少しだけご紹介します！

最優秀賞：Farmlink

データ駆動の農業を実現するアプリ「Farmlink」を提案してくれました。日本の農業が衰退しているという社会課題に着目して、『農業を始めたいけど農地がない』『耕作放棄地が年々増加している』という問題を解消するアプリです。アプリ内では農地を気軽に貸し借りできたり、コミュニティの機能があったり、過去の作業記録が一目で分かったりするのだとか！



サイバーエージェント賞：team_田中

リアルタイムに話し合いを見える化するアプリ「RecoGrapher」を提案してくれました。既存の文字起こしツールでは読みづらすぎるし、グラフィックレコーディングではコストがかかるという課題を解決するためのアプリです。RecoGrapherはAIによってリアルタイムにグラフィックレコーディングができるので、会議の効率が上がります！

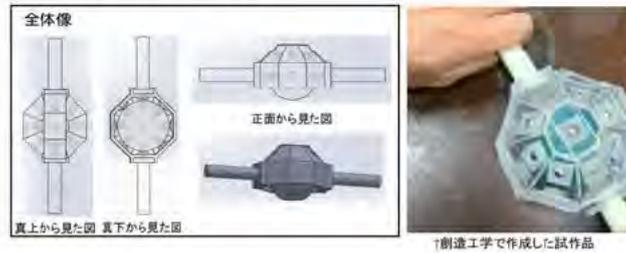


DeNA賞：高倉研究室

市販のアプローチでは満足できない筋トレ上級者にターゲットを絞って、高負荷で高付加価値なトレーニング器具を提案してくれました。接地部分を車輪から球体に変えて可動域を広げることで、高度な姿勢制御が必要となるため既存の製品よりも体幹が鍛えられます！

トレーニング器具の概要

構造：接地球、17個の小球で接地球を取り囲む軸受け、およびグリップから構成される。



MIXI賞：テクノロジー七福神

特殊詐欺の被害が増えているという社会課題から、AIにより詐欺被害を防止できる「Fraud Shield AI」を提案してくれました！詐欺被害の始まりである固定電話に着目したプロダクトです。

2.プロダクトが実現する機能

本 Fraud Shield AI システムでは電話での詐欺被害を防止するために大きく『メインシステム部』と『警告システム部』の2つにより以下の機能をもたらします。



寮の洗濯機が空いているかどうかわからない、洗濯が終わるまで定期的に見に行く手間がかかるという課題から、遠隔から稼働状況がわかるサービス「PowerViewtify」を提案してくれました！電流センサだけで状態検出が可能なため、手軽に設置できる点がポイントです。



▼その他の受賞チーム

ギイクで賞：チャクチ狩り

チャレンジ賞：Unse-project、メガネコーポ、YUHOYURU



当日の様子

協賛企業賞はオフィス訪問！

協賛企業賞を受賞したチームは、3社のオフィスに招待いただき見学してきました！渋谷までの交通費が支給されるのも嬉しいポイントですね。

■株式会社MIXI



■株式会社サイバーエージェント



■株式会社ディー・エヌ・エー



参加するだけで視野が広がるビジコン

『高専ビジネスコンテスト2024 in 鈴鹿高専』レポート記事、いかがでしたでしょうか？
ビジコンに少しでも興味を興味を持ってくださったのであれば嬉しいです。
高専卒業後の未来のこと、“働く”ということがイメージできない学生にはオススメのイベントです。
このnoteを読んでいるあなたもぜひ次回、参加してみてください！

最後に、参加してくださった学生さんからの声を抜粋してお届けします！

- ・ ただのアイデア発表ではなく、商品を市場に投入するための予算、ターゲット層など、今まで考えてこなかった部分について新しく学ぶことができた！
- ・ 運営の方に手厚くサポートをして頂き、開発を順調に進めることができた！
- ・ シンプルに楽しかったです。自分が思いつかないような案や、想像以上の作り込みで、いい経験になったと思います。また、自分の視野が広がりました。
- ・ 今まで関わったことのない学年や学科の違う人たちと交流することができた！
- ・ 色んな人の発表で視野が広がったのと、大企業の方のフィードバックを貰ったり他の人のフィードバックを聞くことで、企業的な目線を知ることができた
- ・ 起業やスタートアップは、カリスマ性のある天才がやるものだと思っていましたが、今までに無いものを作る強い意欲と、諦めない心があれば成功する人もいるんだと知り、少し身近に感じました。
- ・ 自分の将来のことを決めきれていませんが、働くことは思ったより楽しそうなのかなと思いました。

株式会社プロッセル

- ◆ [ホームページ](#)
- ◇ [採用情報](#)
- ◆ [お問い合わせ](#)

この広告について
報告する

Ad choices ▶

社会

政治

経済

スポーツ

地域

コラム

特撮・連載

天気

伊勢新聞 > 北勢 > 「皆も本気の挑戦を」 鈴鹿高専大川さん、出身中で留学報告会 三重

「皆も本気の挑戦を」 鈴鹿高専大川さん、出身中で留学報告会 三重

© 2025-03-20 伊勢新聞



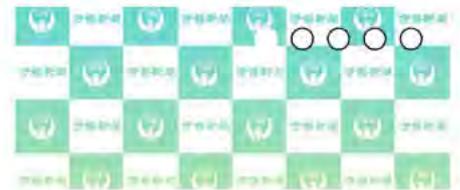
【母校で留学報告会を開いた大川さん＝鈴鹿市三日市町の創徳中学校で】

【鈴鹿】文部科学省の留学支援制度を活用して、米国ロサンゼルスに短期留学した、鈴鹿高専3年の大川さん(18)＝三重県鈴鹿市＝が19日、出身校の市立創徳中学校で留学報告会を開き、在校生約400人を前に「挑戦」の大切さを話した。

中学時代陸上競技部に所属した大川さんは、顧問教諭の一人が男子1600メートルリレーで東京、パリ両五輪に出場した大川さん(26)＝中京大クラブ＝だったことから海外に憧れを持ち、留学を考えるようになった。

その後、文科省の若者向け留学促進事業「トビタテ！留学JAPAN」を知り、応募を決意。自動運転の最先端技術研究を留学テーマに定めて、書類選考や面接を通過すると、今年2月から3月にかけての15日間、現地の大学に通いながら日本人技術者と交流するなどした。

報告会は自身も直面した、地方の情報格差解消の一助になればと中学時代の担任に相談して実現。留学先での一日を動画で紹介するなど分かりやすさを心がけた。今後の目標に、米国の大学院に進み、現地の企業で技術者として経験を積むことを挙げて「自分は留学に挑戦することで将来やりたいことが見つかった。皆も本気の挑戦を」と呼びかけた。



東海大会出場懸け26校熱戦 春の高校野球三重県大会きょう開幕

第72回春季東海地区高校野球三重県大会（県高野連主催、伊勢新聞社後援）が12日、津球場公園内野球場を主会場に開幕する。今年夏の甲子園出場校を決める。第107回全 [...] 続きを読む]

AIアシスタントで仕事をもっと速く。
を体験しよう。

出典：伊勢新聞ウェブサイトより

<https://www.isenp.co.jp/2025/03/20/126429/>

令和6年度 行事予定

(行事は変更されることがあります)

4月			5月		
曜	学 科	専攻科	日 曜	学 科	専攻科
1	春季休業(7日まで)	春季休業(7日まで)	1	水	斉休業日(年体計画的付与日)
2	火		2	木	斉休業日(年体計画的付与日)
3	水		3	金	憲法記念日
4	木		4	土	みどりの日
5	金		5	日	こどもの日 閉寮
6	土	入寮(3学年～5学年)	6	月	授業実施日
7	日	入寮(1学年～2学年)	7	火	願書受付<推薦・社会人>(10日まで)
8	月	入学式 写真撮影<1年> オリエンテーション<全> 情報処理アカウント 説明会<10>	8	水	男子内科検診<1年、2年、3C、3S>
9	火	身体測定<全>情報処理アカウント説明会<1 MEIS> 写真撮影<1年以外>	9	木	
10	水	前期授業開始 運営会議 新入生入学<1年 ><2年>第1回TOEIC-IP試験 歯科検診<3年> 図書館事務補佐員辞令交付式	10	金	前期授業開始 第1回TOEIC-IP試験
11	木		11	土	
12	金		12	日	
13	土		13	月	
14	日		14	火	
15	月		15	水	歯科検診<1年>
16	火		16	木	
17	水	男子内科検診<4年、5年、3M、3E、3I> 学外研修(2年) 新入生校内研修	17	金	
18	木	新入生合宿研修(9日まで)	18	土	入学試験<推薦・社会人>
19	金		19	日	
20	土		20	月	
21	日		21	火	
22	月		22	水	女子内科検診<全>
23	火		23	木	
24	水	AED講習会	24	金	合格発表<推薦・社会人>
25	木		25	土	
26	金	閉寮 開校記念日	26	日	
27	土		27	月	
28	日		28	火	願書受付<学力>(31日まで)
29	月	昭和の日	29	水	歯科検診<2年>
30	火	斉休業日(5/6分)	30	木	
			31	金	

・5学年保護者懇話会(3月から随時)
・学習・教育到達目標の達成度評価アンケート<2～5年>

・前期二輪・四輪通学許可者安全運転講習会
・進学手続き説明会<5年>
・インターンシップ説明会<4年>

・学習・教育到達目標の達成度評価アンケート<2年次>

・進学手続き説明会<2年次>
・インターンシップ説明会<1年次>

・紀要原稿募集

・リーダーシップセミナー

令和6年度 行事予定

(行事は変更されることがあります)

6月			7月		
曜	学 科	専攻科	日 曜	学 科	専攻科
1 土			1 月		
2 日			2 火	願書受付<編入学>(4日まで)	
3 月			3 水		
4 火			4 木		
5 水	授業予備日		5 金		
6 木	前期中間試験(12日まで)		6 土		
7 金		入学確約書提出期限<推>	7 日		
8 土			8 月		
9 日			9 火		
10 月			10 水		
11 火			11 木		
12 水			12 金		
13 木			13 土		
14 金			14 日		
15 土		入学試験(学力)	15 月	海の日 授業実施日	海の日授業実施日
16 日			16 火		
17 月			17 水		
18 火			18 木		
19 水	第2回 TOEIC-IP試験	第2回 TOEIC-IP試験	19 金		
20 木			20 土		
21 金		合格発表<学力>	21 日		
22 土			22 月		
23 日			23 火		
24 月			24 水		
25 火			25 木		
26 水			26 金		
27 木			27 土		
28 金			28 日		
29 土			29 月		
30 日			30 火		
			31 水		

・校内パテントコンテスト作品募集
 ・他高専との指導教生交流研修会
 ・OUテスト(1~5年)

・読書体験記等コンクール作品募集

令和6年度 行事予定

(行事は変更されることがあります)

8月			9月		
曜	学 科	専攻科	日 曜	学 科	専攻科
1 木	授業予備日	授業予備日	1 日	校内ワックスがけ	
2 金	前期未定期試験(8日まで)	前期未定期試験(8日まで)	2 月		
3 土			3 火		
4 日			4 水		
5 月			5 木		
6 火			6 金		
7 水			7 土	オープンキャンパス	
8 木			8 日	オープンキャンパス	
9 金	前期定期試験予備日 夏季休業(9月29日まで)	前期定期試験予備日 夏季休業(9月29日まで)	9 月		
10 土	閉寮	閉寮	10 火		
11 日	山の日	山の日	11 水		
12 月	振替休日	振替休日	12 木		
13 火	斉休業日(7/15分)	斉休業日(7/15分)	13 金		
14 水	斉休業日(11/2分)	斉休業日(11/2分)	14 土	オープンキャンパス(予備日)	
15 木	斉休業日(特別休暇)	斉休業日(特別休暇)	15 日	オープンキャンパス(予備日)	
16 金	斉休業日(11/3分)	斉休業日(11/3分)	16 月	敬老の日	
17 土			17 火		
18 日			18 水		
19 月		入学確約書提出期限<社会人>	19 木		
20 火			20 金	入学確約書提出期限<編入学>	入学確約書提出期限<学力>
21 水			21 土		
22 木	入学試験<編入学>		22 日	秋分の日	秋分の日
23 金			23 月	振替休日	振替休日
24 土			24 火		
25 日			25 水		
26 月			26 木		
27 火			27 金		
28 水			28 土		
29 木			29 日	閉寮(荷物搬入日)	閉寮(荷物搬入日)
30 金	合格発表<編入学>		30 月	後期授業開始	後期授業開始
31 土	校内ワックスがけ				

・高専学会

- ・後期二輪・四輪通学許可者安全運転講習会
- ・オハイオ州立大学学生派遣
- ・ツールク応用科学大学学生派遣
- ・後期始め学寮オリエンテーション

令和6年度 行事予定

(行事は変更されることがあります)

10月			11月			
日	曜	学 科	日	曜	学 科	専攻科
1	火		1	金	高専祭準備日(授業なし)	
2	水		2	土	高専祭 全国高等専門学校デザインコンペティション	高専祭
3	木		3	日	高専祭 全国高等専門学校デザインコンペティション 文化の日	高専祭 文化の日
4	金		4	月	振替休日	振替休日
5	土		5	火	斉休業日(2/9分)	斉休業日(2/9分)
6	日	アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2024(東海北陸地区大会)	6	水	第3回TOEIC-IP試験	第3回TOEIC-IP試験
7	月		7	木		
8	火		8	金		
9	水		9	土		
10	木		10	日		
11	金		11	月		
12	土	ブックハンティング 全国高等専門学校プログラミングコンテスト	12	火		
13	日	全国高等専門学校プログラミングコンテスト	13	水		
14	月	スポーツの日	14	木		
15	火	第2学年研修旅行(10月18日まで)	15	金		
16	水		16	土		
17	木		17	日	アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2024(全国大会)	
18	金		18	月		
19	土		19	火		
20	日	技術英検(1年)	20	水		
21	月		21	木		
22	火		22	金		
23	水	体育祭(中止の場合(予備日なし)臨時休業)	23	土	勤労感謝の日	勤労感謝の日
24	木		24	日		
25	金		25	月		
26	土		26	火	授業予備日	
27	日		27	水	後期中間試験(12月3日まで)	
28	月		28	木		
29	火		29	金		
30	水	第1回就職指導会(合同業界説明会)<4年>	30	土	第1回就職指導会(合同業界説明会)<1年次>	
31	木	臨時休業				

・GTEC(第3学年)

・学位授与申請

・キャリアガイダンス(11月~1月)
 ・後期校長と学費役員との懇談会
 ・GTEC(第2学年)

令和6年度 行 事 予 定

(行事は変更されることがあります)

12月			1月		
日	学 科	専攻科	日	学 科	専攻科
1			1	水	元日
2			2	木	
3			3	金	
4			4	土	
5			5	日	開寮
6			6	月	授業再開 仕事始めの式(校長年頭あいさつ)
7			7	火	
8			8	水	運営会議 第4回TOEIC-IP試験
9			9	木	
10			10	金	
11			11	土	入学試験<推薦>
12			12	日	
13			13	月	成人の日
14	土	高専祭予備日	14	火	創造工学演習発表会
15	日	高専祭予備日	15	水	
16	月		16	木	読書体験記等表彰式
17	火		17	金	卒業研究論文提出期限 合格発表<推薦>
18	水	特別研究Ⅰ発表会	18	土	
19	木		19	日	
20	金		20	月	
21	土		21	火	卒業研究発表会(4・5年)
22	日		22	水	
23	月	閉寮	23	木	
24	火	冬季休業(1月5日まで)	24	金	入学手続期限<推薦>
25	水		25	土	入学試験追試験<推薦> 全国高等専門学校プレゼンテーションコンテスト
26	木	願書受付<推薦>(8日まで)	26	日	全国高等専門学校プレゼンテーションコンテスト
27	金		27	月	願書受付<学力>(30日まで)
28	土		28	火	
29	日		29	水	追試験合格発表<推薦>
30	月		30	木	
31	火		31	金	

・留学生実地見学旅行
・就職試験の筆記試験対策講座

・卒業予定者に対する満足度等アンケート
・卒業予定者に対する学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

・特別研究Ⅱ発表会(1/23～2/2)
・修了予定者に対する満足度等アンケート
・修了予定者に対する学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

令和6年度 行事予定

(行事は変更されることがあります)

2月			3月		
日	学 科	専攻科	日	学 科	専攻科
1	土		1	土	
2	日		2	日	
3	月		3	月	追試験合格発表<学力>
4	火	追試験入学手続期限<推薦>	4	火	学内企業説明会<4年> 学内企業説明会<1年次>
5	水	授業予備日	5	水	卒業判定会議 修了認定会議
6	木	学年末試験(13日まで)	6	木	
7	金		7	金	追認試験(5年)
8	土		8	土	校内ワックスがけ
9	日	入学者選抜(学力)	9	日	校内ワックスがけ
10	月		10	月	
11	火	建国記念の日	11	火	修了認定会議
12	水		12	水	
13	木		13	木	
14	金	学年末定期試験予備日 入学試験委員会 入学試験(学力)採点(予備日) 閉寮	14	金	学年末定期試験予備日 閉寮
15	土		15	土	
16	日		16	日	
17	月		17	月	追認試験(1~4年)
18	火		18	火	追認試験(1~4年)
19	水	答案返却(5年)	19	水	
20	木		20	木	春分の日 春分の日
21	金	答案返却(1年~4年) 合格発表<学力>	21	金	卒業式・表彰式 修了式
22	土		22	土	
23	日	入学者選抜追試験(学力) 天皇誕生日	23	日	
24	月	振替休日	24	月	
25	火	学年末休業(3月31日まで)	25	火	入学予定者オリエンテーション
26	水		26	水	
27	木		27	木	
28	金		28	金	
			29	土	
			30	日	
			31	月	

・新5学年保護者懇談会(4月まで)
 ・自己点検・評価報告会
 ・入学手続期限<学力>(三重県立高校合格発表日)

令和6年度1-3学年前期時間割

		令和6年度 前期												授業時間割表												
曜日		月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日								
時間		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
第1学年	機械工学科		機械工作実習 木下		保健体育 宝来	情報処理I 遠藤		基礎数学A 飯島	物理I 三浦	化学 宇山崎	英語I 古野	基礎数学A 飯島	機械製図I 藤松	特活					歴史 藤野	英語IA 石谷	英語IA 藤外		基礎数学B 川本	現代社会I 富田	英語IA 長井	工学基礎実習 川長打谷田
	電気電子工学科	物理 I 丹波	基礎数学A 飯島	情報処理I 遠藤	センター	英語I 古野	英語IA 石谷	工学基礎実習 吉村		化学 宇山崎		保健体育 宝来	特活					ものづくり実習 生田 西村	英語IA 藤外			基礎数学A 飯島	現代社会I 富田	歴史 藤野	英語IA 長井	
	電子情報工学科	基礎数学A 飯島	物理 I 丹波	英語IA 長井	センター	工学基礎実習 遠平田伊藤藤野	英語IB 熊澤	基礎数学B 川本		英語IB 古野	英語IA 長井	情報処理I 遠藤	特活					クリセン実習室 保健体育 宝来	化学 宇山崎	英語IA 藤外		歴史 藤野	基礎数学A 飯島	現代社会I 富田	プログラミング 川長打谷田	
	生物工学科	応用化学序論 下野	保健体育 宝来	基礎数学B 川本		化学 宇山崎	情報処理I 遠藤	英語IB 古野	歴史 藤野	英語IA 長井	基礎数学A 飯島	センター	特活					英語IA 石谷	基礎数学A 飯島	英語IA 藤外		英語IB 熊澤	物理 I 三浦	現代社会I 富田	工学基礎実習 山下木野	
	材料工学科	英語IA 石谷	物理 I 三浦	英語IB 古野	基礎数学A 飯島	基礎数学B 川本	歴史 藤野	英語IB 熊澤		材料工学実習 赤黒後俊	工学基礎実習 黒石飛後		特活					化学 宇山崎	保健体育 宝来	英語IA 藤外		英語IA 長井	基礎数学A 飯島	情報処理I 遠藤	センター	

令和6年度1-3学年後期時間割

令和6年度 後期 授業時間割表

曜日 時限	月曜日								火曜日								水曜日								木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
機械工学	基礎数学A		情報セキュリティ概論		化学		英語IA		物理I		英語IB		基礎数学A		機械製図I		保健体育		歴史I		機械工作実習		英語IA		国語IA		基礎数学B		美術音楽		国語IB									
	飯島		遠藤		山崎		長井		三浦		古野		飯島		藤松		宝来		藤野		松枝		室語外国		石谷		川本		松原		樋口									
			センター												製図室						クリセン							2台併		2講										
電気電子工学	保健体育		国語IA		英語IA				基礎数学A		歴史I		化学				基礎数学B		英語IB				英語IA				情報セキュリティ概論		美術音楽		物理I									
	宝来		石谷		長井				飯島		藤野		山崎				川本		古野				室語外国				遠藤		松原		樋口									
																											センター		2台併		2講									
電子情報工学	歴史I		プログラミング		保健体育		基礎数学B		化学		情報セキュリティ概論		工学実験		電子情報		英語IB		基礎数学A				英語IA		基礎数学A		美術音楽		物理I		英語IA									
	藤野		青山		宝来		川本		稲垣		遠藤		桑平伊 野野森藤				古野		飯島				森		石谷		松原		樋口		丹波									
			実験室							センター				実験室													2台併		2講											
生物応用化学	英語IA		化学		歴史I				情報セキュリティ概論		基礎数学B		英語IB				化学		国語IA				基礎数学A		保健体育		美術音楽		物理I		基礎数学A									
	長井		淀谷		藤野				遠藤		川本		古野				山本		石谷				菊池		宝来		松原		樋口		三浦									
									センター																		2台併		2講				基礎化学実験室							
材料工学	基礎数学A		設計製図I		基礎数学B		材料工学序論		英語IB		化学		歴史I				国語IA		英語IA				基礎数学A		物理I		美術音楽		情報セキュリティ概論		現代社会I									
	菊池		小林		川本		教科工材 員全学料		古野		稲垣		藤野				石谷		長井				宝来		菊池		室語外国		三浦		松原									
			製図室																								2台併		2講	センター										

令和6年度1-3学年後期時間割

令和6年度 後期 授業時間割表

曜日 時限	月曜日								火曜日								水曜日								木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
第2年 工学 機械工学科	科目	微分積分Ⅰ	保健体育	機械運動学Ⅰ	情報処理Ⅱ	英語ⅡA	機械設計基礎	機械工学実習	物理Ⅱ	地球生命科学	特活					線形代数Ⅰ	化学	現代社会Ⅱ					英語ⅡB	微分積分Ⅰ	国語Ⅱ	デザイン基礎														
	教員	堀江	青柳	長谷川	桑野	日下	白木原	白井	打田	仲丹	坂口					大貫	山崎	松岡					松尾	堀江	久留原															
	教室				センター			センター																																
電気電子工学科	科目	国語Ⅱ	微分積分Ⅰ	英語ⅡA	線形代数Ⅰ	電気回路Ⅰ	地球生命科学	物理Ⅱ	現代社会Ⅱ	実電電気電子工学実験	特活				英語ⅡB	情報処理Ⅱ	化学					保健体育	歴史Ⅱ	微分積分Ⅰ	デザイン基礎															
	教員	久留原	大貫	日ソノ	片岡	柴垣	坂口	仲三浦	松岡	橋生山					松尾	桑野	山崎					青柳	富田	大貫																
	教室								第3合併	実験室						センター								第3合併																
電子情報工学科	科目	化学	線形代数Ⅰ	電気電子基礎Ⅱ	英語ⅡA	国語Ⅱ	情報処理Ⅱ	地球生命科学	現代社会Ⅱ	微分積分Ⅰ	英語ⅡB	特活			物理Ⅱ	ビマイク タコロン 基礎	工学実験	電子情報				微分積分Ⅰ	歴史Ⅱ	保健体育	デザイン基礎															
	教員	稲垣	片岡	森	日下	久留原	岡	坂口	松岡	堀江	松尾				仲三浦	板谷	板谷	飯塚				堀江	富田	青柳																
	教室						センター		第3合併							実験室		実験室						第3合併																
生物応用化学科	科目	微分積分Ⅰ	地球生命科学	線形代数Ⅰ	分析化学	英語ⅡB	物理Ⅱ	実生物応用化学実験	有機化学	保健体育	特活				英語ⅡA	微分積分Ⅰ	歴史Ⅱ				現代社会Ⅱ	国語Ⅱ	情報処理Ⅱ	デザイン基礎																
	教員	大貫	坂口	片岡	甲斐	松尾	仲丹	山本	甲斐	高倉	青柳				日ソノ	大貫	藤野				松岡	久留原	桑野																	
	教室							基礎化学実験室														第3合併		センター																
材料工学科	科目	保健体育	化学	地球生命科学			ものづくり実習	微分積分Ⅰ	国語Ⅱ	英語ⅡA	微分積分Ⅰ	特活			情報処理Ⅱ	現代社会Ⅲ	物理Ⅱ	歴史Ⅱ			現代社会Ⅱ	線形代数Ⅰ	英語ⅡB	デザイン基礎																
	教員	青柳	稲垣	坂口			幸後	堀江	久留原	日ソノ	堀江				桑野	東	仲丹	藤野			松岡	大貫	松尾																	
	教室						クリセン								センター						第3合併																			

令和6年度 後期 授業時間割表

曜日 時限	月曜日								火曜日								水曜日								木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
第3学年 機械工学 科目	目			保健体育		微分積分Ⅱ			英語特講		基熱・流体力学		材料力学Ⅰ			日本文学		微分積分Ⅱ		特活								総合実習				スマカトロニク				電気・電子回路		機械設計製図		
	教員			船越		菊池			林		近藤		松枝			久留原		菊池										白井				白井				打田		民秋		
	教室																											センター、クリセン				センター						センタ、製図		
電気電子工学 科目	目	電気電子計測		英語Ⅲ		実電気電子工学		電気回路Ⅱ		微分積分Ⅱ					電気磁気学Ⅰ		演電気電子工学		特活					電気機器		保健体育					電子回路Ⅰ		日本文学		微分積分Ⅱ					
	教員	西村一		林		川口		辻		伊藤清					柴垣		辻							西村高		船越					西村高		熊澤		伊藤清					
	教室					実験室・センタ																																		
電子情報工学 科目	目	微分積分Ⅱ		電子工学Ⅰ		英語Ⅲ		電気磁気学Ⅰ		保健体育		情報通信ネットワーク		日本文学		電気回路論Ⅰ		データ構造とアルゴリズム		特活				オペレーティングシステム		電気磁気学Ⅰ		デジタル回路			微分積分Ⅱ		電子回路Ⅰ		工学実験		電子情報			
	教員	伊藤清		伊藤明		林		森		船越		飯塚		熊澤		板谷		田添						箕浦		森		平野			伊藤清		飯塚		青森		伊藤			
	教室															実験室								実験室													実験室			
生物応用化学 科目	目	有機化学		基礎細胞生物学				無機化学Ⅰ		英語特講		微分積分Ⅱ		生物化学		生物化学		日本文学		特活				化学工学Ⅰ		保健体育		実生物応用化学			物理化学Ⅰ		微分積分Ⅱ		線形代数Ⅱ					
	教員	高倉		山口				下野		林		伊藤清		小川		熊澤								船越		船越		平下			平井		伊藤清		伊藤裕					
	教室																										基礎化学実験室													
材料工学 科目	目	微分積分Ⅱ		材料組織学		無機材料		設計製図Ⅲ		日本文学		英語特講		保健体育		物理化学				特活				有機材料			材料工学実験						線形代数Ⅱ		微分積分Ⅱ					
	教員	川本		万谷		幸後		南部		熊澤		林		船越		小西								下古谷			和田						伊藤裕		川本					
	教室							センター																			クリセンS・SHAREⅡ													

○鈴鹿工業高等専門学校他学科の授業科目の履修及び単位の修得に関する規則

平成 16 年 4 月 1 日
規 則 第 9 号

鈴鹿工業高等専門学校他学科の授業科目の履修及び単位の修得に関する規則

(趣旨)

第 1 条 鈴鹿工業高等専門学校における授業科目の履修・単位の修得及び修了認定に関する規則(平成16年規則第8号)第 2 条の規定に基づき、第 4～5 学年生が他学科の授業科目を履修し単位を修得する場合は、この規則の定めるところによる。

(他学科の授業科目の履修及び単位の修得)

第 2 条 第 4～5 学年生は、他学科の開設する授業科目を次のとおり履修することができるものとする。

(1) 他学科の専門科目(選択科目に限る。)

ただし、同一科目が学生の所属する学科において開設されている場合は他学科の当該科目は履修できない。

(2) 当該学年の科目及び下位と上位の学年の科目

(3) 前期又は後期に開設される科目(通年開設科目は対象外)

(5) 各年度 5 単位まで

(他学科の授業科目の申請)

第 3 条 他学科の科目の履修を希望する学生は、各学期ごとに、別に定める様式の書類によって申請するものとする。この場合において、実験・演習を伴う科目では・設備・機器の数量等から履修を認めない場合がありうるものとする。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

○鈴鹿工業高等専門学校インターンシップの履修に関する規則

平成 16 年 4 月 1 日

規則 第 1 1 号

最終改正平成 31 年 4 月 1 日

鈴鹿工業高等専門学校インターンシップの履修に関する規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、学科及び専攻科の学生に係るインターンシップの履修に関し必要な事項を定める。

(実習機関の決定)

第 2 条 インターンシップ先となる企業又は公共団体等の機関(以下「実習機関」という。)は、別に定めるインターンシップ実施要項(以下「実施要項」という。)の目的に沿うものとし、教務委員会が決定する。

(インターンシップ学生調書等の提出)

第 3 条 インターンシップを履修する学生は、本校所定の様式によるインターンシップ学生調書又は実習機関が定める同様の調書を実習機関に提出しなければならない。

(インターンシップの責務)

第 4 条 学生は、実習機関の定める諸規則及び実習指導責任者の指示に従わなければならない。

(インターンシップ日報及びインターンシップ報告書の提出)

第 5 条 学生は、インターンシップ終了後、担当教員に、インターンシップ日報及びインターンシップ報告書を提出しなければならない。

(インターンシップの期間及び時間)

第 6 条 インターンシップの期間については、実施要項の実施時期及び期間によるものとし、時間については、実習機関において定められたものとする。

(インターンシップ期間中の休日の取扱い)

第 7 条 インターンシップ期間中の休日は、実習機関において定める休日とする。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 9 月 10 日から施行し、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 24 年 7 月 2 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 27 年 7 月 1 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

○鈴鹿工業高等専門学校インターンシップ実施要項

平成 28 年 4 月 1 日
校 長 裁 定

最終改正令和 6 年 9 月 1 8 日

鈴鹿工業高等専門学校インターンシップ実施要項

1 目的

学科にあつては社会との密接な接触を通じて、技術者として必要な資質と実践的技術感覚を体得し、専攻科にあつては技術者が経験する実務上の問題点と課題を体験することを目的とする。

2 実施時期及び期間

- (1) 実習時期は、学則第 12 条に規定する春季休業、夏季休業、冬季休業及び学年末休業期間中とし、実習期間は、実働 5 日以上でなければならない。
- (2) 実習期間中は、授業に支障をきたしてはならない。

3 修得単位

- (1) 学科においては、第 1 学年から第 3 学年は 3 年をとおして 1 単位とし、第 4 学年及び第 5 学年はそれぞれ 1 単位とする。
- (2) 専攻科においては、各実習期間により、それぞれ 1 単位、2 単位及び 4 単位とする。
この場合における各実習期間は、1 単位においては実働 5 日以上 9 日以下、2 単位においては実働 10 日以上 19 日以下、4 単位においては実働 20 日以上とする。
- (3) 前項及び前二号の規定により学年末休業期間中にインターンシップを開始する場合は、インターンシップの単位を含めることなく課程修了が認められる場合に限るものとし、単位修得の学年は、当該学年とする。

4 インターンシップの内容

学生が従事する実務は、インターンシップの目的にふさわしいものとする。

5 インターンシップ実施機関

インターンシップ先となる企業又は公共団体等の機関（以下「実習機関」という。）は、インターンシップの履修に関する規則第 2 条によることを原則とするが、第 5 学年又は専攻科 2 年次の就職内定者については、内定先企業等における実習に限ることとする。第 1 学年から第 3 学年については、国立高専機構が実施するものに限ることとする。

6 実施のための組織

教務委員会又は専攻科分科会において、インターンシップの実施に必要な具体的事項を取り扱う。

7 指導

- (1) 担当教員が、実習機関との連絡調整に当たるとともに、学生の実習状況を確認し、必要に応じて指導する。
- (2) 実習期間中における実習機関への巡回指導については、担当教員が行う。
- (3) 学生は、インターンシップ日報及びインターンシップ報告書を作成し、実習指導責任者の検印を受けて、担当教員に提出する。

8 成績の評価

担当教員は、実習機関の作成したインターンシップ評定書、学生から提出のあったインターンシップ報告書及びインターンシップ報告会による発表の内容に基づいて、インターンシップ調査書にて評価を行い、その結果を校長に報告する。

附 記

この要項は、平成 24 年 7 月 2 日から施行し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 記

この要項は、平成 27 年 7 月 1 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 記

この要項は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 記

この要項は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 記

この要項は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 記

この要項は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

○鈴鹿工業高等専門学校インターンシップ評価基準

〔平成16年4月1日
校長裁定〕
最終改正平成24年7月2日

鈴鹿工業高等専門学校インターンシップ評価基準

第1条 インターンシップの評価は、この基準により行う。

第2条 インターンシップの評価は、勤務状況、勤務態度、日報、報告書、発表の結果を総合して行う。

第3条 勤務状況及び勤務態度は実習機関指導責任者のインターンシップ評定書により評価する。

第4条 評価の基準は次による。

評価	勤務状況	勤務態度	報告書	発表	総合評価
	A,B,C	A,B,C	A,B,C	A,B,C	優,良,可,不可

勤務状況（評定書による）欠勤、遅刻、早退のない者A

欠勤が実働日数の 1/3 以上はC

勤務態度（評定書による）特記事項で判断

日報、報告書 提出なしはC

発表 発表なしはC

総合評価 全ての項目がA・・・優

全ての項目がB・・・可

評価の項目に1つでもCがあれば不可

上記以外・・・・・・・・良

附 記

この基準は、平成19年8月31日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 記

この基準は、平成24年7月2日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

第2種電気工事士筆記試験免除に係わる指定科目一覧

第2種電気工事士筆記試験免除に係わる指定科目

入学年度	経済産業省令の定める課程						
	電気理論	電気計測	電気機器	電気材料	送配電	製図	電気法規
平成元年 ～7年	電気磁気学 (4)	電気計測 (2)	電気機器 (4)	電気材料 (2)	電力システム (2)	電気製図 (3)	電気法規 (1)
	電気回路 (6)				発変電工学 (1)		
平成8年 ～14年	電気磁気学 (必4)	電気計測 (必2)	電気機器 (必4)	電気材料 (選2)	電力システム (選2)	電気製図 (必3)	電気法規 (選1)
	電気回路 (必6)				発変電工学 (選1)		
平成15 年 ～	電気磁気学 (必4)	電気電子計測 (必2)	電気機器 (必3)	電気電子材料 (必2)	電力システム (必2)	電気電子製図 (必2)	電気法規 (選1)
	電気回路 (必6)				発変電工学 (選1)		

平成14年度以前の入学生は「電気工学科」籍
平成15年度以降の入学生は「電気電子工学科」籍

各科目区分で複数科目あるものは、どれか1つ以上修得することが必要

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成8年度以降入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	21単位中14単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気計測 基礎電気電子工学	
		電気計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		基礎電気電子工学	1					
		電子工学			1	1		
	電子回路			2				
	選択科目					17		
② 電力発生輸送	選択科目	半導体工学				2	9単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気材料 電気法規 電力システム工学	
		デジタル回路			2			
						4		
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			2	2	20単位中9単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 自動制御 パワーエレクトロニクス	
		情報処理	1	1				
		通信工学Ⅰ				2		
		電子計算機Ⅰ				2		
	選択科目							10
		電子計算機Ⅱ						1
		電気応用Ⅰ				1		
		電気応用Ⅱ				2		
		通信工学Ⅱ						2
		電子機器学				1		
自動制御					2			
パワーエレクトロニクス					1			
						10		
④ 実験実習	必修科目	電気工学実験実習		4	4	4	4	16単位中8単位修得しなければならない。
							16	
⑤ 設計製図	必修科目	電気製図	3					3単位中2単位修得しなければならない。
							3	
			5	7	15	20	22	上記科目総単位数69単位中41単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							69	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成12年度以降入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	21単位中14単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気計測 電気工学序論	
		電気計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気工学序論	1					
		電子工学			1	1		
	電子回路			2				
	選択科目					17		
② 電力発生輸送	選択科目	半導体工学				2	9単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気材料 電気法規 電力システム工学	
		デジタル回路			2			
電気材料				1	1			
電気法規					1			
発変電工学					1			
電力システム工学					2			
高電圧工学				2				
電気応用Ⅳ				1				
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			2	2	20単位中9単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 自動制御 パワーエレクトロニクス	
情報処理		1	1					
通信工学Ⅰ					2			
④ 実験実習	選択科目	電子計算機Ⅰ				2	16単位中8単位修得しなければならない。	
		電子計算機Ⅱ				1		
		電気応用Ⅰ				1		
		電気応用Ⅱ				1		
		電気応用Ⅲ						
		通信工学Ⅱ				2		
		電子機器学			1			
		自動制御				2		
パワーエレクトロニクス				1				
⑤ 設計製図	必修科目	電気製図	3				3単位中2単位修得しなければならない。	
			5	7	15	19	23	上記科目総単位数69単位中41単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							69	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成15年度以降入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	21単位中14単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測 電気電子工学序論	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2			
	半導体工学				1			
						18		
	選択科目	デジタル回路				2		
		電子デバイス工学				1		
					3			
② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学				2	9単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気電子材料 電気法規 電力システム工学	
		電気電子材料			1	1		
						4		
	選択科目	高電圧工学						2
		電気法規						1
		発変電工学						1
		電磁波工学						1
						5		
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	20単位中9単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 電子制御基礎 制御システム パワーエレクトロニクス	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理	2	1				
		通信理論						2
		計算機システム						2
						13		
	選択科目	パワーエレクトロニクス						1
		電気電子応用				1		
		電気エネルギー応用						2
情報通信工学						2		
応用情報処理						1		
					7			
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	3	3	13単位中8単位修得しなければならない。	
					13			
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図	2				2単位中2単位修得しなければならない。	
					2			
		5	7	16	18	25	上記科目総単位数71単位中41単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。	
						71		

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成19年度入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	2.1単位中1.2単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測 電気電子工学序論	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2			
		半導体工学				1		
	デジタル回路				2			
						2.0		
	② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学					2
電気電子材料					1	1		
						4		
選択科目		高電圧工学				2		
	電気法規				1			
	発変電工学				1			
					4			
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	1.7単位中8.単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理Ⅰ	2					
		情報処理Ⅱ		1				
		情報通信工学				2		
	計算機システム				2			
						1.3		
	選択科目	パワーエレクトロニクス						1
		電気電子応用				1		
電気エネルギー応用Ⅰ					1			
電気エネルギー応用Ⅱ					1			
					4			
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	3	3	1.3単位中8.単位修得しなければならない。	
					1.3			
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図	2				2.単位中2.単位修得しなければならない。	
					2			
			5	7	15	17	17	上記科目総単位数6.1単位中4.1単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							6.1	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成20年度入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	2.1単位中1.2単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測 電気電子工学序論	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2			
		半導体工学				1		
	デジタル回路				1	1		
						2.0		
	選択科目	電子デバイス工学						1
					1			
② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学				2	8.単位中7.単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気電子材料 電気法規 電力システム工学	
		電気電子材料			1	1		
						4		
	選択科目	高電圧工学						2
		電気法規				1		
		発変電工学				1		
						4		
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	1.7単位中8.単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理Ⅰ	2					
		情報処理Ⅱ		1				
		情報通信工学				2		
	計算機システム				2			
						1.3		
	選択科目	パワーエレクトロニクス						1
		電気電子応用				1		
電気エネルギー応用Ⅰ						1		
電気エネルギー応用Ⅱ						1		
						4		
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	3	3	3	1.3単位中8.単位修得しなければならない。
						1.3		
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図	2					2.単位中2.単位修得しなければならない。
						2		
			5	7	15	17	17	上記科目総単位数6.1単位中4.1単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							6.1	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成21年度以降入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	21単位中12単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測 電気電子工学序論	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2			
		半導体工学				1		
	デジタル回路				1	1		
					20			
	選択科目	電子デバイス工学						1
				1				
② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学				2	8単位中7単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気電子材料 電気法規 電力システム工学	
		電気電子材料			1	1		
	4							
	選択科目	高電圧工学						2
		電気法規				1		
		発変電工学				1		
				4				
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	18単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理Ⅰ	2					
		情報処理Ⅱ		1				
		情報通信工学						2
	計算機システム					2		
					13			
	選択科目	パワーエレクトロニクス						1
		電気電子応用				1		
		電気エネルギー応用Ⅰ						1
電気エネルギー応用Ⅱ						1		
プログラミング言語				1				
				5				
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	4	3	3	14単位中8単位修得しなければならない。
				14				
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図	2					3単位中2単位修得しなければならない。
		電子回路設計			1			
				3				
			5	7	18	17	17	上記科目総単位数64単位中41単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
			64					

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成24年度入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	2.2単位中1.2単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2	1		
		半導体工学				1		
	デジタル回路				1	1		
					2	1		
	選択科目	電子デバイス工学						1
					1			
② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学				2	8単位中7単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気電子材料 電気法規 電力システム工学	
		電気電子材料			1	1		
						4		
	選択科目	高電圧工学						2
		電気法規				1		
		発変電工学				1		
						4		
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	1.8単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理Ⅰ	2					
		情報処理Ⅱ		1				
		情報通信工学				2		
		計算機システム				1		
	パワーエレクトロニクス				1			
						1		3
	選択科目	電気電子応用						2
電気エネルギー応用						2		
プログラミング言語				1				
						5		
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	4	3	4	1.5単位中8単位修得しなければならない。
						1	5	
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図		2				3単位中2単位修得しなければならない。
		電子回路設計			1			
							3	
			3	9	18	17	19	上記科目総単位数6.6単位中4.1単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							6.6	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成25年度入学)

区分	学 科 目	単 位 数					区 分 別 修 得 科 目 ・ 単 位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	2.1単位中1.2単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎			2			
		電子回路			2	1		
		半導体工学						1
	デジタル回路				1	1		
					2	1		
	② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学					2
電気電子材料					1	1		
						4		
選択科目		高電圧工学				2		
		電気法規			2			
	発変電工学			2				
					6			
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	1.8単位中8単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム				2		
		情報処理Ⅰ	2					
		情報処理Ⅱ		1				
		情報通信工学				2		
		計算機システム				1		
	パワーエレクトロニクス				1			
					1	3		
	選択科目	電気電子応用				2		
電気エネルギー応用					2			
プログラミング言語				1				
					5			
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	4	4	4	1.6単位中8単位修得しなければならない。
					1	6		
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図		2				3単位中2単位修得しなければならない。
		電子回路設計			1			
					3			
			3	9	18	17	21	上記科目総単位数6.8単位中4.1単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							6.8	

第2種電気主任技術者資格認定科目一覧

第2種電気主任技術者資格認定科目 (平成26年度以降入学)

区分	学科目	単位数					区分別修得科目・単位	
		1年	2年	3年	4年	5年		
① 電気電子理論	必修科目	電気磁気学			2	2	2 1 単位中 1 2 単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気磁気学 電気回路 電気電子計測	
		電気電子計測			2			
		電気回路		2	2	2		
		電気電子工学序論	1					
		電子物性基礎				2		
		電子回路			2	1		
		半導体工学						1
		デジタル回路				1		1
						21		
	選択科目							
② 電力発生輸送	必修科目	電力システム工学				2	1 0 単位中 7 単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 発変電工学 電気電子材料 電気法規 電力システム	
		電気電子材料				1		1
						4		
	選択科目	高電圧工学						2
		電気法規				2		
		発変電工学				2		
					6			
③ 電気利用等	必修科目	電気機器			1	2	1 8 単位中 8 単位修得すればよいが次の科目は必ず修得しなければならない。 電気機器 パワーエレクトロニクス 電子制御基礎 制御システム	
		電子制御基礎			1			
		制御システム						2
		情報処理I	2					
		情報処理II		1				
		情報通信工学						2
		計算機システム						1
		パワーエレクトロニクス						1
						13		
	選択科目	電気電子応用						2
電気エネルギー応用						2		
プログラミング言語				1				
					5			
④ 実験実習	必修科目	電気電子工学実験実習		4	4	4	4	1 6 単位中 8 単位修得しなければならない。
						16		
⑤ 設計製図	必修科目	電気電子製図		2				3 単位中 2 単位修得しなければならない。
		電子回路設計			1			
						3		
			3	9	16	19	21	上記科目総単位数 6 8 単位中 4 1 単位修得。かつ、科目条件を満たすこと。
							68	

他の高等教育機関との単位互換制度によって学生が修得した単位

年度	学年・学科	氏名	授業科目名	教育機関名	単位数
令和5年度・後期	5 M		数理・データサイエンス・人工知能への誘い	長岡技科大	2単位
令和5年度・後期	5 E		数理・データサイエンス・人工知能への誘い	長岡技科大	2単位
令和5年度・前期	5 I		情報技術基礎 I	長岡技科大	2単位
令和5年度・前期	2 A		情報処理概論	長岡技科大	2単位
令和5年度・前期	2 A		データ構造とアルゴリズム	豊橋技科大	2単位
令和5年度・後期	5 M		データベース	九州工業大学	2単位
令和5年度・前期	2 A		数値の処理と数値解析 ('22)	放送大学	2単位
令和5年度・後期	2 A		免疫学・ウイルス学総論	放送大学	1単位
令和5年度・後期	2 A		データベース ('23)	放送大学	2単位

令和6年度は、単位取得者なし

令和6年度オリエンテーション 教務関係

令和6年4月8日(月)

教務主事

(電子情報工学科)

1. 本校の使命・教育理念等について
2. 令和6年度行事予定について
3. 教務関連事項について

鈴鹿工業高等専門学校基本理念

(学生便覧)

鈴鹿工業高等専門学校は、建学の精神を踏まえ、未来を展望し、次のとおり教育理念と養成すべき人材像を定める。

使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、**グローバルに活躍する人づくり**と、**新しい価値の創造**により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

- (1) 広い視野から価値判断ができ、**技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。**
- (2) 科学技術に関する**高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。**
- (3) 未知の問題に果敢に挑み、**新たな価値を創造する力**を育てる。
- (4) 心身を鍛え、己を確立し、**自ら未来を切り拓く力**を育てる。

養成すべき人材像

- (1) 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- (2) 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- (3) 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- (4) コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材

鈴鹿工業高等専門学校^の教育目標

(学生便覧)

○教育に関する目標

<学科教育>

教育方針

教養教育の目標

専門教育の共通目標

機械工学科の目標

電気電子工学科の目標

電子情報工学科の目標

生物応用化学科の目標

材料工学科の目標

<専攻科教育>

教育方針

総合イノベーション工学専攻の

教育目標

<学習・教育到達目標>

○学生への支援に関する目標

【機械工学科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.127)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。

＜意欲＞ 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学およびAI・データサイエンスに関する情報技術の知識を習得している。

＜専門＞ 機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を身に付けている。

＜展開＞ 習得した知識・技術をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【電気電子工学科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.128)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 地球人としての視野をもって自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。

＜技術者倫理＞ 技術が人類・社会・自然におよぼす影響や生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。

＜意欲＞ 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学およびAI・データサイエンスに関する情報技術の知識を習得している。

＜専門＞ 電気・電子・情報通信分野の基礎理論、基礎技術の知識を習得している。

＜展開＞ 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【電子情報工学科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.129)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。

＜意欲＞ 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学およびAI・データサイエンスに関する情報技術の知識を習得している。

＜専門＞ 電子情報工学と関連分野の知識を習得している。

＜展開＞ 習得した知識をもとに創造性を発揮し、電気・電子および情報・通信技術を融合し、新たな価値を生み出す能力を習得している。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による技術文書の記述・読解ができる。

【生物応用化学科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.130)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 自己と世界の間係を理解し地球規模で物事を眺める。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。

＜意欲＞ 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学およびAI・データサイエンスに関する情報技術の知識を習得している。

＜専門＞ 応用化学・生物工学に関する専門知識・実験技術を習得している。

＜展開＞ 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【材料工学科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.131)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 自己と世界の間係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。

＜意欲＞ 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学およびAI・データサイエンスに関する情報技術の知識を習得し、それを活用できる。

＜専門＞ 材料工学科と関連分野の専門基礎知識、専門知識・技術を習得している。

＜展開＞ 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【専攻科】学習・教育到達目標

(学生便覧p.132)

(A) 技術者としての姿勢

＜視野＞ 自己と世界の間係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。

＜技術者倫理＞ 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。

＜意欲＞ 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。

(B) 基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞ 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。

＜専門＞ 基礎工学に加え、主となる専門分野において環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの各コースに関する専門工学の知識を習得し、それを活用できる。

＜展開＞ 習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。

(C) コミュニケーション能力

＜発表＞ 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。

＜英語＞ 英語による基本的なコミュニケーションができる。

1. 本校の使命・教育理念等について
2. 令和6年度行事予定について
3. 教務関連事項について

1年間の学習スケジュール

前期（4月～9月） 後期（10月～3月）

前期

4月10日(水)

前期授業開始

6月 6日(木)～ 6月12日(水)

前期中間試験

8月 2日(金)～ 8月 8日(木)

前期末試験

8月 9日(金)～ 9月29日(日)

夏休み

後期

9月30日(月)

後期授業開始

11月27日(水)～12月 3日(火)

後期中間試験

2月 6日(木)～ 2月13日(木)

学年末試験

2月25日(火)～

春休み

令和6年度行事予定

4月8日(月)	入学式, 写真撮影(1年), オリエンテーション
4月9日(火)	身体測定, 写真撮影(1年以外)
4月10日(水)	授業開始, 学力テスト(1,2年), 第1回TOEIC-IP

4月27日(土)～5月5日(日)	ゴールデンウィークは9連休
5月6日(月)	授業実施日(こどもの日 振替休日)
6月5日(水)	前期中間授業予備日
7月15日(月)	授業実施日(海の日)
8月1日(木)	前期末授業予備日
8月9日(金)	前期末試験予備日
11月26日(火)	後期中間授業予備日
2月5日(水)	学年末授業予備日
2月14日(金)	学年末試験予備日

年度初めオリエンテーション資料(教務主事)

前期

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	4/1	4/8	4/15	4/22	4/29	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29	8/5	8/12	8/19
		入学式・オリエンテーション	1	2	昭和の日	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	祝日法による休日	8/26
火	4/2	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13	8/20
		身体測定	1	2	一斉休業日 5/6分	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	一斉休業日 7/15分	8/27
水	4/3	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7	8/14	8/21
		1/新入生学力テスト(1回限)	2	3	臨時休業 計画年休	4	5	6	7	授業予備日	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	一斉休業日 11/2分	8/28
木	4/4	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15	8/22
		1	2	3	臨時休業 計画年休	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	授業予備日	前期末試験	一斉休業日(特別休)	8/29
金	4/5	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	8/2	8/9	8/16	8/23
		1	2	3	憲法記念日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	前期末試験	定期試験予備日	一斉休業日 11/3分	8/30
土	4/6	4/13	4/20	4/27	5/4	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13	7/20	7/27	8/3	8/10	8/17	8/24
	開寮				みどりの日		専攻科 推薦				専攻科 学力								閉寮		8/31
日	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	8/11	8/18	8/25
	開寮				こどもの日															山の日	9/1

後期

第2学年研修旅行

	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週
月	9/30	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	12/30	1/6	1/13	1/20	1/27	2/3	2/10	2/17
	1	2	スポーツの日	3	4	祝日法による休日	5	6	7	8	9	10	11 閉寮		12	成人の日	13	14	15	学年末試験	2/24
火	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17	12/24	12/31	1/7	1/14	1/21	1/28	2/4	2/11	2/18
	1	2	3	4	5	一斉休業日 2/9分	6	7	授業予備日	8	9	10			11	12	13	14	15	建国記念の日	2/25
水	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/1	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5	2/12	2/19
	1	2	3	体育祭	4	5	6	7	8	9	10	11		元日	12	13	14	15	授業予備日	学年末試験	2/26
木	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	12/26	1/2	1/9	1/16	1/23	1/30	2/6	2/13	2/20
	1	2	3	4	臨時休業日	5	6	7	8	9	10	11			12	13	14	15	学年末試験	学年末試験	2/27
金	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/3	1/10	1/17	1/24	1/31	2/7	2/14	2/21
	1	2	3	4	高専祭準備日	5	6	7	8	9	10	11			12	13	14	15	学年末試験	定期試験予備日 閉寮	2/28
土	10/5	10/12	10/19	10/26	11/2	11/9	11/16	11/23	11/30	12/7	12/14	12/21	12/28	1/4	1/11	1/18	1/25	2/1	2/8	2/15	2/22
					高専祭			勤労感謝の日							推薦入試						
日	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	12/29	1/5	1/12	1/19	1/26	2/2	2/9	2/16	2/23
					高専祭 文化の日									閉寮						学力入試	2/30

1. 本校の使命・教育理念等について
2. 令和6年度行事予定について
3. 教務関連事項について

授業時間割

1・2時限 8:50～10:20(90分)

休憩(10分)

3・4時限 10:30～12:00(90分)

昼休み(50分)

5・6時限 12:50～14:20(90分)

休憩(10分)

7・8時限 14:30～16:00(90分)



課外活動等

中間・期末試験について

●試験時間について

試験時間は、50分試験又は90分試験とする。

●遅刻について

50分試験、90分試験いずれも試験開始後20分を経過すると試験室への入室は認められない。

●途中退室について

50分試験では試験終了まで、90分試験では60分を経過しないうちは退席できない。退席した者は、迷惑にならないように、学生控室(別途指定)で自習すること。

●不正行為・疑いが生じる行為をしないこと。

- 机の上には筆記用具(指定された物)のみで、筆箱は置かない
- 机の中には何も入れない
- スマートフォン・スマートウォッチ等は鞆に入れる
- 試験終了の合図の後、直ちに筆記用具を置く

【履修単位】と【学修単位】

(高等専門学校設置基準)

第十七条 3 各授業科目の単位数は、**三十単位時間**(一単位時間は、標準五十分とする。第七項において同じ。)の履修を**一単位**として計算するものとする。【履修単位】

4 前項の規定にかかわらず、高等専門学校が定める授業科目については、一単位の授業科目を**四十五時間の学修**を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、**授業時間外に必要な学修**等を考慮して、おおむね**十五時間**から四十五時間までの範囲で高等専門学校が定める時間の授業をもつて**一単位**として単位数を計算することができる。【学修単位】

5 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は、**六十単位を超えないもの**とする。【学修単位】

学習(学修)サポート

学修支援員, 学生TAが自己学習をサポート

曜日:

月曜日 16:00-18:00

火曜日 16:00-18:00

水曜日 14:30-17:00

場所: イノベーション交流プラザ2F サイエンス教育支援室

放課後に自己学習する環境を提供します

創造工学

「カーボンニュートラルの実現」

創造工学 × 社会実装

三重県(＋日本自動車部品工業会4社)との連携
各社1テーマ(計4テーマ)を実施予定

キックオフ説明会

初回(4月12日)9:00-9:30@第3合併講義室

生成AI講座

(鈴鹿高専テクノプラザ寄付講座)

課題研究(全学科・全学年)

時間:水曜日14:30-16:00(90分×15回)

場所:情報処理センター演習室

人数:学生40名＋鈴鹿高専テクノプラザ10名

生成AIとは	5/15	生成AIを活用して実現したい課題 の抽出(企画)	10/2
生成AI強み、弱み	5/22		10/9
プロンプト概論	5/29	課題の改善策を創造する(設計)	10/30
プロンプト演習	6/19		11/13
高度なプロンプト解説	7/3		12/4
高度なプロンプト演習	7/17	成果発表準備	12/18
6回までの講義のまとめ・振り返り	7/31	成果発表	1/15
		成果発表の振り返り・評価	1/22

学生表彰について

- 優秀賞(学科・専攻科)
- 努力賞(学科)
- 皆勤賞(学科)
- 精勤賞(学科)

- 特別賞(学科専攻科共通)

最後に

学生のみなさんの
主体的な学びに期待します。

がんばりましょう。

令和6年度 入学式から授業開始までの行事予定 2/21 版

月日	時間	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	専攻科1年次	専攻科2年次	
4月8日(月)	10:00~	式場入場 (第1体育館)						式場入場 (第1体育館)	
	10:30~	入学式 学級単位写真撮影(各クラス に校長入ります。) ※第1体育館前(雨天時館内)						入学式 年次単位別写真撮影 ※第1体育館前(雨天時館内)	
	12:00~	昼食						昼食	
	13:00~	クラス別オリエンテーション 学生便覧、時間割等配付 教科書・教材の配付 (第1合併講義室・売店) ※1Cのみ情報処理センターアカウント 説明会の実施 13:50-14:20 1CCR 15:45-16:45 情セ第1	クラス別オリエンテーション 室長・評議員(副室長)の選出 学生便覧・時間割等の配付 教科書の配付(第2学年~第5学年:第2合併講義室)	年度初めオリエンテーション(教務主事、学生主事)			年度初めオリエンテーション(教務主事) ※13:30 教務主事の説明終了後、年次別オリへ		
	14:30~	年度初めオリエンテーション(教務主事、学生主事)		クラス別オリエンテーション 室長・評議員(副室長)の選出 学生便覧・時間割等の配付 教科書の配付(第2学年~第5学年:第2合併講義室)			年次別オリエンテーション 単位修得状況確認、学生便覧・時間割等配付 (情報処理センター演習室) 教科書・教材の配付(第2合併講義室)		
15:30	終了								
4月9日(火)	8:50	集合・連絡(各教室)	集合・連絡(各教室)					集合・連絡(各教室)	
	9:00~	定期身体測定	定期身体測定 学級単位写真撮影 (第1体育館前, 雨天時館内)	定期身体測定 学級単位写真撮影 (第1体育館前, 雨天時館内)			定期身体測定	定期身体測定 年次単位別写真撮影 ※第1体育館前(雨天時館 内)	
	12:00~	昼食							
13:00~	情処センターアカウント説明会 1M 13:00-14:30 1MCR, 情セ第1 1E 13:00-14:30 1ECCR, 情セ第2 1I 14:00-15:30 1ICR, 情セ第2 1S 14:00-15:30 1SCR, 情セ第1	定期身体測定・学級単位写真撮影 ※終了次第解散							
4月10日(水) 前期授業開始	8:50~	授業							
	12:00~	昼食							
	12:50~	集合・学力テスト 国語・数学・英語	集合・学力テスト 数学・英語						
	14:00~			TOEIC-IP 試験(該当学生のみ)					TOEIC-IP 試験(全員受験)
15:00~									
16:00	終了	終了							

※凡例1: 情セ→情報処理センターを意味する。

※凡例 1MCR→機械工学科 クラスルームを意味する。(その他も同様に所属学科 クラスルームを意味する。)

○鈴鹿工業高等専門学校情報セキュリティ学生規程

平成23年12月5日
規則第91号
最終改正令和4年8月3日

目次

- 第1章 総則（第1条－第7条）
- 第2章 情報システムの利用（第8条－第16条）
- 第3章 情報の取扱い（第17条）
- 第4章 教育（第18条）
- 第5章 情報セキュリティインシデント対応（第19条）
- 第6章 規程違反の取扱い（第20－21条）

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために情報システムを利用する学生が遵守すべき事項を定めるものである。

（定義）

第2条 この規程における用語の定義は、独立行政法人国立高等専門学校機構サイバーセキュリティポリシー対策規則（平成22年機構規則第98号）、独立行政法人国立高等専門学校機構サイバーセキュリティポリシーに係る情報格付規則（平成22年機構規則第99号）、並びに鈴鹿工業高等専門学校サイバーセキュリティ管理規程（平成22年規程85号）の定めるところによる。

（適用範囲）

第3条 この規程は本校が扱う情報を対象とする。ただし、本校以外から知り得る情報は除く。

2 この規程は本校の情報システムを対象とする。

（適用対象）

第4条 この規程は本校の情報資産を利用する学生に適用する。

（一般的遵守事項）

第5条 学生は、この規程及び本校情報資産の利用に関する各実施手順等を遵守すると共に、その他関連規則を遵守しなければならない。

2 学生は、立ち入り制限がされている場所にみだりに立入らないこと。

（一般的禁止事項）

第6条 学生は、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。

- 一 差別、名誉毀損、誹謗中傷、人権侵害、ハラスメントにあたる情報の発信

- 二 個人情報やプライバシーを侵害する情報の発信
- 三 守秘義務に違反する情報の発信
- 四 著作権等の知的財産権や肖像権を侵害する情報の発信
- 五 公序良俗に反する情報の発信
- 六 本校の社会的信用を失墜させるような情報の発信
- 七 ネットワークを通じて行う通信の傍受等、通信の秘密を侵害する行為
- 八 不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成11年法律第128号）に定められたアクセス制御を免れる行為、またはこれに類する行為
- 九 過度な負荷等により円滑な情報システムの運用を妨げる行為
- 十 その他法令に定められた禁止行為
- 十一 損害賠償等の民事責任を発生させる情報の発信
- 十二 上記の行為を助長する行為

（本校の情報システムの利用に係わる禁止事項）

第7条 学生は、本校の情報システムについて、予め情報処理センター長または指導教員など当該情報システム管理者から許可を得ている場合を除き、次の各号に掲げる行為を行ってはならない。

- 一 利用を許可された以外の目的で利用すること、及び利用資格のない者に利用させること。
 - 二 新たにソフトウェアインストールすること及びコンピューターの設定の変更を行うこと。
 - 三 新たにコンピューターシステムを本校内に設置すること及び本校のネットワークに接続すること。
 - 四 本校の情報システムを利用して情報公開を行うこと。
 - 五 ネットワーク上の通信を監視し、または情報システムの利用情報を取得すること。
 - 六 管理権限のないシステムのセキュリティ上の脆弱性を検知すること。
- 2 ファイルの自動公衆送信機能を持ったP2P ソフトウェアについては、教育・研究目的以外にこれを利用してはならない。なお、当該ソフトウェアを教育・研究目的に利用する場合は情報セキュリティ責任者の許可を得なければならない。

第2章 情報システムの利用

（アカウントの申請）

第8条 情報システムを利用しようとする学生は、当該情報システム管理者に、情報システム利用申請を行い、アカウント（ユーザ ID およびパスワード）の交付を得なければならない。ただし、個別の届出が必要ないと、あらかじめ情報システム管理者が定めている場合はこの限りでない。

（ユーザーID の管理）

第9条 学生は、本校の情報システムに係わるユーザーID について、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 自分に付与されたユーザーID 以外のユーザーID を用いて、本校の情報システムを利用しないこと。

- 二 自分に付与されたユーザーIDを他者が情報システムを利用する目的のために付与及び貸与しないこと。
- 三 自分に付与されたユーザーIDを、他者に知られるような状態で放置しないこと。
- 四 ユーザーIDを利用する必要がなくなった場合は、当該情報システム管理者に届け出ること。ただし、個別の届出が必要ないと、あらかじめ当該情報システム管理者が定めている場合はこの限りでない。

(パスワードの管理)

第10条 学生は、本校の情報システムの利用認証に係わるパスワードについて、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 他者に知られないようにすること。
 - 二 他者に教えないこと。
 - 三 容易に推測されないものにする。
 - 四 パスワードを定期的に変更するように定められている場合は、その指示に従って定期的に変更すること。
 - 五 忘れないように努めること。
 - 六 異なる識別コードに対して、共通のパスワードを用いないこと。
 - 七 異なる情報システムに対して、識別コード及びパスワード情報の共通の組合せを用いないこと。(シングルサインオンを除く。)
- 2 前項のパスワードが他者に使用されまたはその危険が発生した場合は、直ちに当該情報システム管理者にその旨を報告しなければならない。

(情報システムの取扱と注意事項)

第11条 学生がPCを利用する場合は、当該PC及び扱う情報を適切に保護しなければならない。

第12条 学生は、利用するPCについて、情報セキュリティの維持を心がけるとともに、次の各号に掲げる対策を講じなければならない。

- 一 マルウェア対策ソフトウェアを導入したPCを利用し、マルウェア感染を予防できるよう努めること。
- 二 インストールされているOSやアプリケーションソフトの脆弱性が通知された場合は、その真偽を確認の上、指示された修正プログラムのインストールまたは脆弱性回避措置を講じること。
- 三 前二項を実施する権限を持たない情報システムについては、第19条の「情報セキュリティインシデントの発生時における報告と応急措置」に従うこと。

第13条 学生が前条に係る以外の情報システムを利用する場合は、情報処理センター長の許可を得て、その指示に従って必要な措置を講じなければならない。

(電子メールの利用)

第14条 学生が電子メールを利用する場合は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 不正プログラムの感染、情報の漏えい、誤った相手への情報の送信等の脅威に注意すること。
- 二 利用を許可された以外の目的での通信を行わないこと。

三 電子メール使用上のマナーに反する行為を行わないこと。

(ウェブの利用)

第15条 学生がウェブブラウザを利用する場合は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 不正プログラムの感染、情報の漏えい、誤った相手への情報の送信等の脅威に注意すること。
- 二 利用を許可された以外の目的でのウェブの閲覧を行わないこと。

(本校支給以外の情報システムからの利用及び本校支給以外の情報システムの持込)

第16条 学生は、本校支給以外の情報システムから公開ウェブページ以外の本校情報システムへアクセスする場合または本校支給以外の情報システムを本校の情報システムに直接接続して利用する場合は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 事前に情報処理センター長の許可を得ること。
- 二 利用する当該情報システムには、可能な限り強固な認証システムを備えること。
- 三 当該情報システムにマルウェア対策ソフトウェアがインストールされていること、及び最新のウィルス定義ファイルに更新されていることを確認すること。
- 四 当該情報システムで動作するソフトウェアがすべて正規のライセンスを受けたものであることを確認すること。

第3章 情報の取扱い

(情報の取扱い)

第17条 学生は、許可された以外の目的で、情報を利用してはならない。

- 2 学生は、許可された以外の目的で、情報を保存、複製、及び消去してはならない。
- 3 学生は、許可された以外の目的で、情報を運搬・送信、公表、及び提供してはならない。

第4章 教育

(情報セキュリティ対策教育の受講義務)

第18条 学生は、入学時に本校情報資産の利用に関する教育を受講しなければならない。

第5章 情報セキュリティインシデント対応

(情報セキュリティインシデントの発生時における報告と応急措置)

第19条 学生が情報セキュリティに関する事故および事象（以下「インシデント」という。）を発見したときは、連絡窓口（学生課または情報処理センター）に連絡すること。

- 2 当該インシデントが発生した際の対処手順の有無を確認し、当該対処手順を実施できる場合は、その手順に従うこと。ただし、当該インシデントについて対処手順がない場合または実施できない場合は、その対処についての指示を受けるまで被害の拡大防止に努めるものとし、指示があった時にその指示に従うこと。

第6章 規程違反の取扱い

(セキュリティ確保に関する義務)

第20条 学生が、情報セキュリティ関連法令、独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の基本方針または実施規則、若しくは本校の情報セキュリティ実施規程または実施手順への重大な違反を知った場合は、連絡窓口（学生課と情報処理センター）にその旨を報告しなければならない。また、緊急性が低い場合は、校長意見箱への投稿に替えることができる。

(違反者の取扱い)

第21条 情報セキュリティ関連法令、機構の基本方針または実施規則、若しくは本校の情報セキュリティ実施規程に違反した学生は、違反した内容に応じて本校情報システムの一部または全部の利用を不許可とする。

- 2 情報システムの利用を不許可とされた学生の不許可理由が解消された場合は、当該情報システム管理者に利用許可を申請することができる。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年8月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月14日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和4年8月3日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

0.1.学生情報

- 学生には以下の情報を付与しています
 - **出席番号** 年度ごとに变化 >学年+学科+名列順で構成
 - **学籍番号** 入学した時に付与 >学生証に書いてある番号
 - **学生ID** システム上で使用する記号 >不変(5年間 緒)
 - 演習室PCやMoodleなどのユ ザ名にも使用
 - **鈴鹿高専Webメ ルアドレス** 就職・進学・イベント出場登録と学生として活動する時に使用 >不変(5年間 緒)

0.2.初期パスワード

- 配布したアカウントの紙に書いてあるパスワードは今回の初回設定時のみに使用します。以降は、変更した**共通パスワード**をどのシステムでも使用します。共通パスワードの有効期限は3年なので、期限が近付く3年生後期から4年生前期の間に変更しましょう

0.3.学校の情報システム

- 1年生は以下のシステムを度々使用します
 - 情報処理センタ 演習室PC
 - 校内無線LANサ ビス(校内の全学生向け)
 - Moodle(学習補助システム)
 - Microsoft365(コラボレ ションアプリ+オフィススイ ト)
 これらを使用するには**学生ID+共通パスワ ド+スマホ認証**または**鈴鹿高専Webメ ルアドレス+共通パスワ ド+スマホ認証**が必要になります。システムの使い方は本日の講習+情報処理の授業+特活などでレクチャ されます

1.演習室PCサインイン

- 英大文字・英子文字・数字・記号は区別します
 - 大文字は**Shiftキ** を押しながらアルファベットキ を押す
 - ハイフン(**-**)は**Enterキ** の左上の「ひらがなの『ほ』」



2.初期パスワードを変更

- 情報処理センター学内ページのリンクを利用



3.鈴鹿高専共通パスワードへ変更

- ページ内の情報を確認して更新作業を行います



4.パスワード変更メニューへ

- 「パスワード変更」の言葉をクリックしてサインインを実施
- サインインは学生IDと紙に書いてあるパスワードを使用



5.パスワード設定規則

- 個人情報から推測されないパスワード
- 複雑なパスワード
 - 16文字以上
 - 英大文字・英小文字・数字・記号の文字種の4種を全て含む
- 現在と異なるパスワード
- 他システムのパスワードと異なるパスワード
- 有効期限は3年(通知があったら更新)



6.変更作業時の注意

- 変更ボタンは教員の指示で押してください
 教員：横一列(最大8人)ずつで変更ボタンを押させてください
 ※1名でもレスポンスがあったら次の列に進んで変更の指示を出してください
- 変更ボタンクリック後は画面上部に表示されるOKボタンも押します
- 変更完了後はスタートメニューのサインアウトボタンからサインアウトを実行

7.Microsoft365ポータル(旧Office365)

- 契約しているMicrosoft社のOfficeを入手・操作するシステム
- 課題作成やOfficeソフトのダウンロードが可能



該システムから認証を受けて利用を始める行為をログインと呼びます。
 サインイン・ログオンとも呼ぶ場合もあります。どちらも行っている事は変わりません

8.Microsoft365ポータルサインイン

- 入力フォームに鈴鹿高専Webメールアドレスを入力



9.Microsoft365ポータルサインイン

- 高専専用フォームに鈴鹿高専共通パスワードを入力



10. Microsoft365ポータルサインイン

- 多要素認証設定 = 認証アプリ + QRコードで設定
 - 認証に使用する要素の選択 = 認証アプリ



項目から「認証アプリ」を選択

11. Microsoft365ポータルサインイン

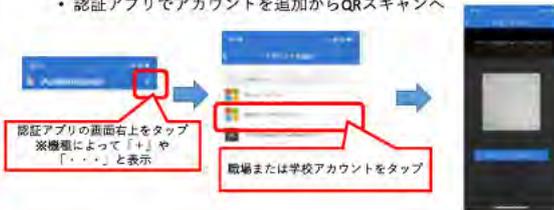
- 説明をよく読み、認証用QRコードの表示まで進みます



※Microsoft社の都合で認証アプリでも「アプリ操作で認証」か「アプリ内表示のコードで認証」等のどの方法の使用するか指定される場合があります。その時は自身で使用しやすい物を選択

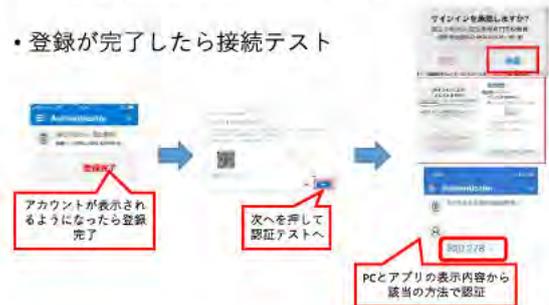
12. Microsoft365ポータルサインイン

- QRコードは認証アプリでスキャンします
 - 認証アプリでアカウントを追加からQRスキャンへ



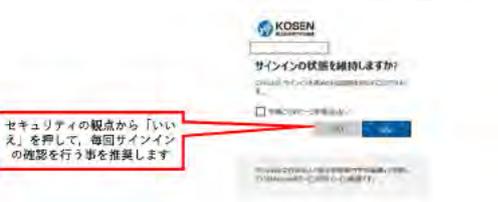
13. Microsoft365ポータルサインイン

- 登録が完了したら接続テスト



14. Microsoft365ポータルサインイン

- サインインが完了すると簡略化確認画面が表示されます



セキュリティの観点から「いいえ」を押して、毎回サインインの確認を行う事を推奨します

15. Microsoft365ポータル

- 確認が完了するとポータル画面が表示されます



16. サインイン実施作業

1. 鈴鹿高専Webメールアドレスを入力
2. 鈴鹿高専共通パスワードを入力
3. 多要素認証設定で「認証アプリ」を選択
4. QRコード表示まで進めて、認証アプリでスキャン
職場・学校のアカウントを選択
5. アプリにアカウントが登録されたら、承認作業まで進める

※この一連の作業は時間制限が設定されています。各自で速やかに作業を進めましょう。また、多要素認証設定後に電話番号設定が表示されたら入力しておきましょう

17. 学術認証の多要素認証設定

- 大学・高専などが連携して運用しているシステム
 - 本人確認の為に多要素認証が必須
 - Shibboleth認証(シボレス認証)と呼ばれる事もある



18. 学認の多要素認証設定

- 情報処理センター学内ページのリンクを利用



19. 学認の多要素認証設定

- ページ内の情報を確認して更新作業を行います



20. 学認の多要素認証設定

- <https://authin.suzuka-ct.ac.jp>をクリックし、ログイン



21. 学認の多要素認証設定

- 多要素認証設定から「トークンアプリを使用する」へチェック



22.学認の多要素認証設定

- 多要素認証設定から「トークンアプリを使用する」へチェック
- チェック後は認証アプリでQRコードをスキャン



23.学認の多要素認証設定

- QRコードは認証アプリでスキャンします
- 認証アプリでアカウントを追加からQRスキャンへ



24.学認の多要素認証設定

- 認証アプリの設定後は「次へ」をクリックして、動作テスト



25.学認の多要素認証設定

- 認証コードを要求されたら認証アプリ表示の番号を入力
- 認証アプリの番号は30秒毎に更新されるので素早く入力



26.学認の多要素認証設定

- 設定完了!
- ログアウトをクリックして、設定を終了



27.本日実施してもらう内容(終わり)

- 作業完了後は担任の指示でTeamsやMoodleの使い方講習があります。担任の指示に従って、様々なツールを使ってみましょう!

28. 演習室PCサインアウト

- 演習室のPCは電源をオフにできません
- 終了する時は「サインアウト」で利用者情報の解除を代用
 - サインアウトはスタートメニュー内右端のサインアウトボタン



End.Teamsアプリの導入

- 学校の全連絡を受信する為にアプリをインストール
- TeamsアプリはMicrosoft社のものを使用します
- インストール後はサインインを要求されるので、
- 本日設定したアカウント情報と認証を実施しましょう



iOS用



Android用

認証アプリ



iOS用



Android用

Moodleアプリ



iOS用



Android用

学外からのアクセス方法

1. 検索サイトから「鈴鹿高専」を検索
2. 「<https://www.suzuka-ct.ac.jp>」の公式HPへ
3. ページ右上のリンク集をクリック
4. ページ下部の本校学生・教職員用へ

